

オーケストラ・コンサート情報満載!

40 ORCHESTRAS

日本オーケストラ連盟ニュース

加盟オーケストラ コンサート情報 2025年12月~2026年3月



Vol.118

世界と語り、己のかたちを知る



Contents

- アジア オーケストラ ウィーク 2025 2
- [インタビュー] アジアで活躍する仲間たち 4
- オーケストラと万博 5
- 被爆80周年に想うこと 6
- 愛知4大オーケストラ・フェスティバル 2025 7
- League of American Orchestras
第80回ナショナル・カンファレンス参加報告 8
- オーケストラ 連帯の軌跡 ③—野宮 珠里 9

- NHK交響楽団ヨーロッパ公演 2025 10
- [本の紹介]『田邊 稔の日本フィル物語』 10
- News & Topics 12
- リレーエッセイ 13
- Concert information 14
- インフォメーション 24

アジア オーケストラ ウィーク 2025 Asia Orchestra Week 2025

AOW はアジア太平洋地域のオーケストラに特化した世界初の国際的なフェスティバルで、文化庁芸術祭の一環として 24 年目を迎えます。これまでに 16 の国と地域から 60 を超えるオーケストラが参加、世界でも類を見ないスケールで展開されています。

本年は初の兵庫開催。アカデミー機能を併せ持ち、若い奏者の兵庫芸術文化センター管弦楽団と老舗の風格充分な香港フィルハーモニー管弦楽団が初参加しました。

文：逢坂 聖也 (音楽ライター)

AOW 2025 兵庫芸術文化センター管弦楽団 (PAC)

10月4日は兵庫芸術文化センター管弦楽団(PAC)の登場。ソリストに小山実稚恵を迎え、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番で幕を開けた。

PAC は世界各国からオーディションによって選ばれた35歳(入団時)までのコアメンバーを中心に編成され、その在籍期間は最長3年。公演を重ねつつ彼らは優秀なオーケストラプレイヤーとして育成されるという、世界でも類を見ないアカデミー機能を持ったオーケストラである。そのためコアメンバーのほぼ1/3はシーズンごとに入れ替わる。今期は14名の新メンバーを迎えてスタートしたばかりだ。

こうした中で行われた AOW2025 初日のラフマニノフだったが、これが実に引き締まった演奏。小山の力強いピアノと一体となったダイナミックな音のドラマを繰り広げた。その悠然とした響きはまたこの日の指揮者、出口大地の手腕を感じさせるものでもあった。ソリスト・アンコールはショパンのノクターン第2番。コンチェルトの熱狂を静めるかのように、柔ら



©飯島隆

かな音色がほぼ満席の KOBELCO 大ホール (2141 席) を満たした。



©飯島隆

出口と PAC が出色のコンビネーションを見せたのが、大栗裕の『大阪俗謡による幻想曲』である。大阪の夏祭りの記憶を懐かしい鐘や太鼓の響きをまじえて描き出した作品ながら、その熱気と郷愁は世界に通じるものがあるのだろう。大阪出身の出口と日本・海外混成の PAC が創り上げる絶妙な“浪速のグルーブ”は、この日の大きな聴きものとなった。

そしてムソルグスキーの『展覧会の絵』(ラヴェル編)は太い筆で大胆に描いたような極彩色の響き。各曲の性格が活きたスケールの大きな演奏となった。特に『テュイルリーの庭』や『卵の殻をつけた雛の踊り』など、明るい曲想の作品での生気に富んだ表現が印象的。その魅力は終曲の『キエフの大門』にも溢れ、会場を大きな拍手で包んだ。

AOW 2025 シンポジウム

10月12日には香港フィル、PACを迎えてシンポジウムが行われた。開幕にはミニ・コン

サートが置かれ、香港フィルの王亮(ヴァイオリン)、カオリ・ウィルソン(ヴィオラ)、大阪交響楽団の林七奈(ヴァイオリン)、日本センチュリー交響楽団の末永真理(チェロ)のカルテットがモーツァルトのディヴェルティメント K.136 第1楽章ほかを演奏。『広がりゆくアジアのオーケストラ市場』というこの日のテーマを瑞々しい響きで彩った。

最初の講演者として登壇したのが、香港フィルの芸術企画部門ディレクターのティモシー・ツカモト氏と運営部門ディレクターのヴァネッサ・チャン氏。「香港フィルの戦略、ビジョン、グローバル展開」と題して50年以上におよぶ楽団の歴史と現在、将来への展望を語った。高い演奏力と多角的な活動を支える基盤として、メインスポンサーにアジア有数の企業グループ、スワイヤー社を擁すること。また香港政府(特別行政区政府)からの資金援助を受けつつも、地元スポンサーである香港ジョッキー・クラブ(競馬の競技団体)からの出資も大きいことなど、フリーポート香港ならではの経営戦略が興味深かった。

続いて登壇したのが PAC のチーフ・プロデューサーである横守裕久氏。「次世代オーケストラ・プレイヤーの育成環境」と題して、独自のアカデミー機能を持った PAC の取り組みを語った。創設から20年となる PAC のユニークな在り方は、現在さまざまな国と地域で実を結んでいる。横守氏の言葉からは、

兵庫芸術文化センター管弦楽団

©飯島隆



10月4日(土) 兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール

兵庫芸術文化センター管弦楽団

指揮:出口大地、ピアノ:小山実稚恵

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

大栗 裕:大阪俗謡による幻想曲

ムソルグスキー(ラヴェル編):組曲「展覧会の絵」

10月12日(日) 兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール

シンポジウム「広がりゆくアジアのオーケストラ市場」

10月13日(月・祝) 兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール

10月14日(火) ミューザ川崎シンフォニーホール

香港フィルハーモニー管弦楽団

指揮:リオ・クオクマン、ピアノ:反田恭平

チャールズ・クワン(鄭展維):フェスティナ・レンテ(疾如風、徐如林)
(香港フィル委嘱、日本初演)

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

チャイコフスキー:交響曲 第5番 ホ短調 作品64

こうした国際的な人材の輩出によってPACの存在が今後もさらに注目すべきものとなるだろうことが感じられた。

パネル・ディスカッションでは、モデレーターに指揮者で龍谷大学国際学部非常勤講師の宮崎優也氏を迎え、上記のメンバーに香港フィル楽団長のベルンハルト・フライシャー氏、東京交響楽団専務理事・楽団長の廣岡克隆氏が加わって意見交換が行われた。限られた時間の中、駆け足の対話ではあったが、2024年から「アジア・プロジェクト」を掲げてアジア各国との交流を重ねる東京交響楽団・廣岡氏の、「オーケストラは国を超えて共通のプラットフォームとなり得る存在。アジア全域が1つの文化圏として成長できれば」という言葉が心に残った。



©Nakatsugawa



香港フィルハーモニー管弦楽団

10月13日は香港フィルハーモニー管弦楽団の演奏。都倉俊一文化庁長官の挨拶に続き、香港フィルがレジデント・コンダクターのリオ・クオクマンとともに登場した。

1曲目に置かれたのは香港出身の作曲家、チャールズ・クワン(鄭展維)による『フェスティナ・レンテ』(疾如風、徐如林)。明滅する音の細胞が弦、管、打楽器のあいだを行き来するような現代作品である。ダブルのティンパニとマリンバが打ち合い、ミュート付きトランペットの響きが存在感を放つ。曲は静寂の中で終わり、リオ・クオクマンが総譜を掲げて拍手となった。

続いて演奏されたのが独奏に反田恭平を迎えてのチャイコフスキー、ピアノ協奏曲第1番。冒頭のホルンの強奏から、巨大な響きがホールを圧した。反田は強靱なタッチでピアノを鳴らし、曲の魅力を浮かび上がらせてゆく。リオ・クオクマンは時に背後を振り返り、反田とアイコンタクトを交わしながら香港フィルから壮麗な音色を引き出していった。コンチェルトの醍醐味がたっぷり詰まった演奏だった。ソリスト・アンコールはシューマン＝リストの『献呈』。弾き終えた反田がまず香港フィルに一礼した姿が印象的だった。



©Keith Hiro/HK Phil



©Keith Hiro/HK Phil

そして後半のチャイコフスキーの交響曲第5番は、リオ・クオクマンと香港フィルの実力を存分にアピールした演奏となった。リオ・クオクマンのエネルギッシュな音楽創りを香港フィルの機動性が受け止めている、といった印象だろうか。ヴァイオリンの弓のアップダウン、その幅と角度が揃った統率の行き届いたアンサンブルは、広くアジアから世界市場までも視野に入れたこの楽団の在り方を示すものと言えるだろう。第4楽章、早めのテンポでコーダに突入したリオ・クオクマンは、輝かしい高揚のうちに全曲を締め括った。その余韻の中でバッハの『羊は安らかに草を食み』が静かに演奏され、AOW2025 兵庫公演は幕を閉じた。アジアのオーケストラの奥行きを感じた全3日だった。

主催:文化庁

共催:日本経済新聞社
兵庫県、兵庫県立芸術文化センター(10/4,12,13)

特別協賛:新菱冷熱工業株式会社

協力:日本旅行
香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部

運営協力:ジャパン・アーツ(10/14)

制作:公益社団法人日本オーケストラ連盟

香港フィルハーモニー管弦楽団

©Keith Hiro/HK Phil



Interview アジアで活躍する仲間たち

子どものためのワークショップでは「想像してもらうことが重要」と語られた田中さん。
表現者としての柔らかさと音楽を仕事にする気迫が言葉の端々から伝わるインタビューでした。



香港フィルハーモニー管弦楽団 田中 知子さん(ヴァイオリン奏者)

名古屋生まれ、熊本県出身。4歳よりヴァイオリンを始める。

愛知県立芸術大学卒業後、アメリカボストンにあるニューイングランドコンセルヴァトリー大学院に進学。

同大学院在学中にマイケル・ティルソン・トーマス音楽監督のニューワールドシンフォニーオーケストラオーディションに受かり、アシスタントコンサートマスターを務める。

1997年に香港フィルハーモニー管弦楽団に所属、同年にはパシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)のコンサートミストレスを務め、日本各地で演奏。

2014年にCD Tomoko Tanaka album 1を、2022年に香港で活躍するギタリスト、ジャッキー・ラウと共に演奏した“十弦”の録音がリリースされる。

現在は香港フィルのオーケストラでの活動の他、ソロリサイタルや室内楽コンサートを香港、ヨーロッパ、日本の各地で開く。また、プロオーケストラ奏者のための指導、後進の指導、チャリティーコンサート活動や、香港在日本領事館主催の日本-香港友好コンサートプロジェクトにも力を注いでいる。

香港フィルハーモニー管弦楽団(以下、香港フィル)の入団のきっかけは?

潮田益子先生にどうしても習いたくてボストンの大学院に行きました。その時のアメリカがとても魅力的で、アメリカで演奏家として生活するためにどうすれば良いか考え、毎朝4時まで必死に練習してニューワールドシンフォニーオーケストラに入団できました。

香港に行くきっかけとなったのは、パートナーが韓国のオーケストラに入団し、遠距離になってしまったことです。オーケストラの給料だけで生活できること、英語圏であること、韓国に近いことを条件にオーケストラを探し、香港フィルに行くことになりました。練習時間がしっかりとれるくらい生活基盤がしっかりしていな

いと心が荒んでいきます。疲れ切って弾いても演奏に出てしまいますし、そういった意味で当時の香港フィルは待遇が良かったです。周りに相談したときには、アメリカに残る方が良いと言われることが多かったのですが、唯一益子先生が背中を押してくださいました。

香港フィルの活動について教えてください。最近は海外ツアーが多い印象です。

今最も香港フィルが力を入れていることだと思います。海外ツアーが増えたのは最近で、昨年も今年も7回行きました。時差ボケが大変です(笑)。世界に出て香港フィルを知っていただき、アジアで名実ともに著名なオーケストラを目指しています。海外ツアーに行くとメンバーと朝から夜までずっと一緒にいることになります。事務局としてはメンバー同士が家族のように交流が深まり、結果演奏技術も向上することも狙っているようです。

香港フィル以外の活動について教えてください。

異業種の方々が集まる「21世紀会」という会で演奏する機会をいただきお話をすると、楽しく、自分の視点も変わり、自分なりの活動ができるようになりました。「21世紀会」の方々には私の演奏活動を長い間ご支援いただいております。香港フィルの楽員としてもチェア(スポンサー)をいただきました。新しい風を入れるのは日本でも香港でも難しいこととは思いますが、やっぱり自分で世界を広げていくことが大事だと思います。

また、子どものための演奏活動もしています。最近は奄美大島で小学生のために6時間プログラムで演奏しました。配布プログラムや曲の説明はいりません。目を閉じて聴いてもらい、想像力を働かせてどんなストーリーが思い描かれるか、何色でどんな形が想像されたかを紙に書いてもらうと、たくさん書いてくれるんです。子どもたちは大人が好

きな答えを考えてしまうけれど、同じ曲でも明るいと感じる人もいれば、暗いと感じる人がいるのは当たり前なので、「あなたがどう感じたかが重要」ということを伝えています。



▲奄美大島の放浪館志塾での音楽ワークショップ

アジアのオーケストラにチャレンジする後輩にメッセージをお願いします。

演奏家として生活するにあたって、日本で勉強するだけでは卒にはまってしまい、息苦しく感じる時があると思います。海外では様々な価値観の人がいるからこそ自分のことも受け入れてくれるので、行って、自分の強みをアピールできるようになる必要があると思います。私も話すのは得意ではないのですが、日本人は特に自分の強みを言えない人が多いと思います。

アジアユースオーケストラの方によく相談されるのが「オーディションで緊張して弾けなくて、どこのオーケストラにも入れない」ということです。練習ばかりしていると疲れてしまっていて忘れてしまうのだと思いますが、原点に戻ってなぜヴァイオリンを弾いているのか、どうしてオーケストラに入りたいのかを思い出してほしいです。日本人は基礎が出来ている人ばかりなので、海外で自分の強みを探してアピールする方法を学ぶだけで、これまで苦しい思いをして練習した甲斐があったと感じるときがくると思います。



▲10月13日、アジア オーケストラ ウィークの公演にて

オーケストラと万博

宮崎 優也 (指揮者、大阪アーツカウンシル)



「成長の物語」から 「共生と持続の物語」へ

1970年の大阪万博を覚えている人々にとって、「万博」といえば今もなお、高度経済成長の象徴であり、未来への希望そのものではないでしょうか。テーマは「人類の進歩と調和」。技術と文化が一体となり、「日本の明日」を世界に向けて語った時代だったように感じます。

クラシック音楽界にとっても、欧米の名門オーケストラやオペラが次々と来日し、日本人が初めて世界水準の音楽に直に触れる機会となりました。EXPO'70がもたらした衝撃と熱は、日本の音楽界の成長を大きく後押しした出来事として、今も語り継がれています。

そして55年後、再び大阪・関西で開催される万博。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。かつての“進歩と調和”が象徴した「成長の物語」から、「共生と持続の物語」へ——時代の価値観は大きく変わりました。技術の発展そのものよりも、人と人がどうつながり、どう生きていくのか問われる時代。音楽もまた、その変化を映す存在になっているように思います。

人と社会の“関係”を生み出す

前回の万博のような熱狂こそないものの、今回の万博では大阪をはじめ日本や各国のオーケストラ、さまざまな演奏団体が、その理念をそれぞれの形で音に託していました。開会式では、大阪フィル、関西フィル、日本センチュリー響、大阪響、Osaka Shion Wind Orchestraの5団体が一堂に会し、佐渡裕氏の指揮で式典音楽を担いました。

また、会場中央の「グランド・リング」で行われた「1万人の第九 EXPO2025」では、世代や立場を越えた人々が声を重ね、“共に生きる”というテーマを音そのもので体現していたように感じます。さらに、落合陽一さんの演出・監修、広上淳一さんの

指揮による《null² (ヌルヌル) する音楽会》では、生成 AI や能、映像が融合し、「境界をほどく音楽」というまったく新しい試みが生まれていました。

それだけではなく。会場内の各国パビリオンでも、オーケストラやオペラ、伝統音楽や即興ライブなど、多彩な音楽が鳴り響いていました。ポーランド国立管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、ローマ歌劇場管弦楽団などが自国の作品を紹介し、ベトナム館では弦楽や竹琴を使った伝統音楽のライブ、ウズベキスタン館では国立交響楽団が委嘱新作《Celestial Dance / 天翔神楽》を披露するなど、各国が自らのアイデンティティを音で表現し、来場者と文化的対話を試みていたように思います。ここには書ききれないほど、さまざまな音楽公演やイベントが会場のあちこちで繰り広げられていたのも印象的でした。

形式や背景は異なっても、そこに共通していたのは、音楽が単なる演奏ではなく、人と社会のあいだに“関係”を生み出す行為として響いていたことでした。

音楽の存在意義を社会と共有するために

かつてオーケストラは、作品を忠実に再現し、完成度を競うことでその価値を示してきました。しかし今、世界中のオーケストラが高い水準に達し、「上手さ」だけでは伝わらない時代を迎えています。大切なのは、どこで、誰が、どんな思いで音を鳴らすのか——その“存在の理由”なのだと感じます。

今回の万博に関わったオーケストラや演奏団体は、その問いを正面から受け止めていたように思います。音楽はイベントを飾るBGMではなく、「なぜ音楽がいま必要なのか」を社会に静かに問いかけるメッセージであることを。

オーケストラは単に音を奏でる集団ではありません。そこに生きる人々の記憶や感情を

受け取り、社会の声を音として返す存在です。演奏という行為は、もはや“結果”ではなく、“対話”そのものです。

音楽が「共に声をあげること」だとすれば、万博という場所は、その本質を最も純粹なかたちで映し出す舞台だったのかもしれない。

「いい演奏をすれば終わり」ではなく、「なぜ演奏をするのか」を問い続けること。それこそが、これからのオーケストラやオペラなどの芸術団体に求められる姿勢なのではないでしょうか。

そこに初めて、聴く人や地域、行政が「この音楽は自分たちのものだ」と感じ、支えたいと思う気持ちが生まれるのだと思います。単なる娯楽ではなく、自分たちの社会にとって欠かすことのできない営みであり、日々を支えるための文化なのだと、自然に思えるようになることが大切だと感じます。

大阪・関西万博で響いた音は、単なる祝祭の一部ではなく、音楽の存在意義を社会と共有するための実験だったように思います。音は一瞬で消えますが、その響きが人々の心に残り、社会を結び直すきっかけとなる——。万博の会場で鳴り響いた音楽は、きっとその可能性を私たちにそっと教えてくれたのではないのでしょうか。



2025年10月12日(日)
令和7年度(第80回)文化庁芸術祭主催公演
「アジア オーケストラ ウィーク 2025」
香港フィルと大阪響、日本センチュリー響のメンバー
による特別編成カルテット
(大阪・関西万博会場内 高原レストラン「水空」SUIKUUにて)

被爆80周年に想うこと

広島交響楽団 事務局長 井形 健児



2025年9月 被爆80周年特別公演（戦争レクイエム）

1945年8月6日、人類史上初の原子爆弾の投下により焦土と化した広島に街において、わずか18年後の1963年に広島市民交響楽団が発足しました。その後楽団は1970年に名称を現在の広島交響楽団とし1972年にプロ化。以来音楽で平和を訴えることを使命とし、広島の文化振興と発展、復興に寄与してきました。その証にプロ化した1972年8月5日に定期演奏会を開催。その後も不定期ではありますが「平和」関連のイベントにも積極的に参加してきました。

8月の原爆の日に合わせて公演が盛んに行われてきたのは1980年代になってからで、その最も象徴的だったのが、被爆40周年に当たる1985年8月6日、バーンスタイン指揮、当時13歳の五嶋みどりや広島出身の大植英次らが参加した「広島平和コンサート」（管弦楽：ヨーロッパ・コミュニティ・ユース・オーケストラ）でした。

以後、毎年、特に周年には記念碑となるような公演が重ねられてきましたが、広響にとって大きな転機となったのが、2015年（被爆70周年）の「平和の夕べコンサート」で、広響は初めて周年事業の企画運営を広島市から託されることとなったのです。ご記憶の方も多いと思いますが、マルタ・アルゲリッチとの初共演により「平和の夕べコンサート」を広島と東京で開催し大成功を収める結果となりました。続く2020年は被爆75周年にあたることから、広響平和音楽大使を引き受けていただいたマルタ・アルゲリッチを再度広島に招き、加えて今度は広響が主体となって世界の主要オーケストラメンバーを招聘する計画でした。しかし、新型コロナウイルスの世界的パンデミックにより海外からの来日は全て中止となってしまったのです。当時音楽総監督を務める下野竜也の大英断により乗り切り、その後の長期化したコロナ禍を経て、

2023年に楽団は創立60周年を迎え、この年を最後に下野竜也は音楽総監督を退任しました。

2024年4月から新たにクリスティアン・アルミンクを音楽監督に迎え、楽団は新体制の中で被爆80周年（2025年）を迎えることとなりました。6月に巨匠フェドセーエフを迎えてのMusic for Peace公演、8月の「平和の夕べ」ではマリア・ジョアン・ピレシュをソリストに迎えての広島、大阪、東京の3都市開催。シン・ディスカバリー・シリーズ（全4公演）では、「広島レクイエム（糀場富美子作曲）」や「広島犠牲者に捧げる哀歌（ペンデレッキ作曲）」「ピアノ協奏曲第4番＜Akiko's Piano＞（藤倉大作曲）」等のヒロシマ関連作品の一挙再演。9月に英国を代表するボーンマス・シンフォニー・コーラスを迎えての「戦争レクイエム（プリテン作曲）」、そして10月の「マルタ・アルゲリッチ特別公演」と、広響にとってまさにこれまでにないラインナップを揃えることができました。広響という未来永劫続く長い歴史の一端を担うことへの重圧よりも、喜びと感謝の気持ちが上回っていました。



2025年8月 被爆80周年 2025「平和の夕べ」コンサート

ところが、シーズンが始まって早々にフェドセーエフが体調不良からの降板。続いてピレシュも直前で病気により降板。ディスカバリー・シリーズで予定していた大木正夫の交響曲第5番「ヒロシマ」の楽譜（パート譜）の不明、といった難題が次から次に…しかし、アーティストが持つヒロシマで演奏することへの強い思いを改めて実感するきっかけともなり

ました。

9月に開催した「戦争レクイエム」は、当初は英国合唱団の「広島で戦争レクイエムを歌うことが長年の夢」との熱意から2021年に計画していたところ長期化するコロナ禍で来日叶わず、計画を一旦破棄しましたが、その熱意は冷めることがなく、最終的に被爆80周年に当たる本年（2025年）に開催の運びとなったのです。その合唱団にはなんとブリテンの大甥にあたるビル・ブリテンが参加。客席にも二人の大姪がいらっしやったりと、信じられない計らいもあり、英国の合唱団と広島オーケストラとの奇跡的な出会いは言葉を超えて「平和」への想いを一つにした素晴らしい演奏で幕を閉じました。

このように難題を一つ一つ対処し乗り越えた結果、楽団の結束と集中力は高まり、それぞれの公演は広響の歴史に刻まれる大きな感動へと結びつきました。

「被爆80周年」を迎え、広響の長い歴史が一気に押し寄せてくる不思議な感覚。現在は過去と繋がっていて、現在はやがて過去となり、楽団の未来へと繋がっているのです。歴代広響を支えてきた先人たちにも様々な物語があり、度重なる苦難を乗り越えてきたように、今を精一杯真摯に取り組んでまいりたい。1984年、広響第2代音楽監督就任にあたって渡邊暁雄が「米国のクリーブランド管弦楽団のように、地方都市にあってもレベルの高い楽団に育てるのが夢」と語り、秋山和慶は退任の挨拶で「一つだけ悔いが残ることがあるとすれば任期中に音楽専用ホールを広島を中心に建てるができなかったことです。」とのメッセージを残しています。先人たちの大なる夢を未来へと繋ぎたい。未来の広響を支える人たちが「被爆80周年」を振り返った時、誇りに思ってもらえるような宝物を残すことができれば嬉しく思います。

愛知4大オーケストラ・フェスティバル2025 ブラームス交響曲全曲演奏会

2025年8月31日(日) 13:00開演(12:15開場) 愛知県芸術劇場コンサートホール



山下一史×愛知室内オーケストラ



竹本泰蔵×中部フィルハーモニー交響楽団

8月31日、最高気温40度という記録的な暑さの中、名古屋市・愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて、愛知県を拠点とする4つのプロフェッショナル・オーケストラが一堂に会し、ブラームスの交響曲全曲をリレー形式で演奏するコンサートが開催された。

一歩外に出れば熱中症の危険すらある酷暑にもかかわらず、ホールは満員となり、外の暑さに負けないほどの熱気と高揚感に包まれた。

最初に登場したのは「山下一史指揮・愛知室内オーケストラ」による交響曲第1番。室内オーケストラの規模でありながらも、各奏者がしっかりと音を鳴らし、重厚感のある響きがホール全体に広がった。丁寧に構築された音楽の中に、小編成ならではの室内楽的なアプローチも随所に感じられた。

次に「竹本泰蔵指揮・中部フィルハーモニー交響楽団」による交響曲第2番。当初は芸術監督・首席指揮者の秋山和慶氏が務める予定だったが、今年1月の

ご逝去に伴い、竹本氏が代役として登壇した。音楽の流れを大切にしながらも、明るく開放的なサウンドが印象的で、竹本氏が秋山氏への敬意を胸に、楽団の持つ力を最大限に引き出していたのが印象深い。

3番目は「角田鋼亮指揮・セントラル愛知交響楽団」による交響曲第3番。4つの交響曲の中でも最も構築の難しい作品だと感じるが、角田氏は全体の設計を明確に描き、細部まで丁寧に音楽を積み上げていった。誇張を避けつつ流れを重視した堅実なアプローチにより、終始落ち着きと集中力のある演奏を聴かせた。

最後は「川瀬賢太郎指揮・名古屋フィルハーモニー交響楽団」による交響曲第4番。大編成の迫力と精緻なアンサンブルが見事に融合し、コンサートの掉尾を華やかに飾った。川瀬氏の情熱的で的確な指揮がオーケストラを力強く導き、終盤に向けて高まるエネルギーがホール全体を包み込むように広がっていった。最後の一音が消えた瞬間、会場は大きな達成感と一体感に満ちていた。

同じ地域に拠点を置く4つのプロフェッショナル・オーケストラがひとつの演奏会を作り上げることは、地域の音楽文化にとって誠に意義深い出来事である。すでに来年の開催も決定しており、今後のさらなる発展が期待される。

大阪に本拠を置く4つのオーケストラが集う「大阪4オケ」が11年目を迎え、長きにわたり継続してこられた背景には、「大阪国際フェスティバル」の一環として確固たる位置づけを得ていることが大きい。

愛知4大オーケストラ・フェスティバルが今後持続的に発展していくためには、このような意義あるプロジェクトを支えるスポンサーや地域社会の理解と支援が欠かせない。

地域の力を結集し、音楽を通じて新たな絆を紡ぐ本プロジェクトが、今後さらに輝きを増していくことを心から願っている。

日本オーケストラ連盟 専務理事
望月正樹

角田鋼亮×セントラル愛知交響楽団



川瀬賢太郎×名古屋フィルハーモニー交響楽団



League of American Orchestras 第80回ナショナル・カンファレンス参加報告



群馬交響楽団 事業一課 深堀 愛香

2025年6月10日～13日、ユタ州ソルトレイクシティーのハイアット・リージェンシーにて、League of American Orchestras 第80回ナショナル・カンファレンスが開催された。オーケストラ連盟の沖汐明日香氏(現・東京フィル)と共に参加し、ユタ交響楽団・ユタオペラをホストに、国内外から約1,100名の関係者が集い、運営・財政・人材育成・地域連携など多様なテーマで議論・情報交換が行われた。

ユタ交響楽団・ユタオペラについて



ユタ交響楽団(1940年)とユタオペラ(1978年)はユタ州ソルトレイクシティーを拠点に1979年に統合し、現在は年間約170公演を州内各地で開催している。カンファレンス期間中には、モーリス・アブラヴァネルホールで桂冠指揮者ティエリー・フィッシャー指揮による名曲コンサートを鑑賞。コルンゴルト《ヴァイオリン協奏曲》(ソリスト:クララ=ジュミ・カン)やメキシコ作曲家の作品など、地域性を意識したプログラムが好評を博した。公演前後には楽員によるブレイクやフォトブース設置、独自アプリによる情報発信など、観客拡大に向けた多彩な工夫が見られ、カンファレンス参加者向けのレセプションも行われた。

セッションは多岐にわたり、アメリカのオーケストラの情報や知見を得るとともに、ディスカッションを通じ日本のオーケストラの現状も紹介できた。以下では、特に印象に残ったセッションの内容を紹介する。

戦略計画の明確化

LAOのCEO & President サイモン・ウツ

ズ氏によるセッションでは、自身のロイヤル・スコティッシュ管弦楽団、シアトル交響楽団、ロサンゼルス・フィルでの経験をもとに、戦略計画の立案や組み立て方について具体的知見が共有された。参加者は各自のオーケストラの目的や存在意義を再確認し、ディスカッションを通じて見えていなかった課題や気づきを得た。

特に、オーケストラの理念(企業理念)を考える手順を実践的に学べた点が興味深かった。また、作成した戦略計画をどのような手順でオーケストラ全体に共有し、理解を促す具体的手順も示され、参加者の実務に直結する内容であった。ウツ氏の豊富な経験に基づく助言は、参加者にとって非常に有意義で心に響くものだった。

地域の健康とウェルネスを支えるオーケストラ

今回のカンファレンスでは「ウェルネス」という言葉が頻繁に取り上げられた。アメリカのオーケストラにとって、地域との連携は最重要ミッションであり、地域の幸福や健康に寄与す



ることが存在意義の一つとなっている。

「アーツとヘルス」の親善大使として登壇したソプラノ歌手ネ・フレミング氏は、音楽家としての社会貢献活動を紹介し、精神的

健康が社会課題となる中で、音楽を通じた支援の可能性を語った。

近年は、単なる「癒し」としての音楽ではなく、医療・福祉の専門機関と連携した体系的な取り組みが広がりつつある。ユタ交響楽団の青少年の自殺防止支援や、ライマ交響楽団の受刑者支援など、対象を絞った活動が成果を上げている。

また、活動後に奏者の声を聴き、感謝を伝える「アフターケア」の重要性も強調された。

米国カンファレンス派遣にあたって

2013年、前職のコンサートホールで働く私に「BBC交響楽団【Diverse Orchestra Japan】派遣プログラム」のお誘いがありました。40代半ばだった私は、何の迷いもなくひと回り若い事業制作のスタッフに声をかけましたが、自治体派遣の上司から「時期尚早」と言われ参加させてあげられず悔しい思いをしました。あれから12年がたち、参加した人たちは全国のオーケストラや劇場でそれぞれ要職に就き、強い意志を持って挑戦し続けています。

今回LAO参加の話聞いた時、機会を逃すまいとすぐにオーケストラ連盟に連絡しました。再び現在の自治体派遣の上司たちに、「百考は一行にしかず」の大切さ、これをきっかけとして多くのスタッフが様々な研修に積極的に参加できる環境を作りたいと説明し、理解を得ることが叶い、今回の派遣へと繋がりました。さらにスタッフと経営側双方がキャリアプランやキャリアパスをより意識することに繋がればと思っています。

今回の参加が個人や所属する団体に留まらず、業界全体で考える契機となることを心から願っています。最後に今回の参加に際して、多くのオーケストラの皆様のご理解とご支援にいただきましたことに深く感謝申し上げます。

群馬交響楽団 音楽主幹・上野喜浩

こうした地道な姿勢が、オーケストラの社会的信頼や支援拡大にもつながっている。演奏を超え、地域の心の健康を支える存在としての役割が、今、オーケストラに求められている。

今回の経験を通じ、セッションや参加者との交流から新たな気づきと視野を広げることができた。国は異なるものの、日本のオーケストラと共通する課題があることも確認でき、音楽を通じ豊かな社会を目指す仲間が存在を知ったことは、大きな励みとなった。

初の「オーケストラ・フォーラム」

「全日本オーケストラ連盟」結成が日本交響楽団連絡会議（交響連）と地方交響楽団連盟（地響連）の合同会議で決定した1989年、オーケストラ界でもう一つ、注目すべき動きがあった。3月28日に東京・赤坂の全日空ホテルで開催された「オーケストラ・フォーラム'89」である。「そだてよう日本のオーケストラ——より豊かな響きを求めて」をメインテーマに掲げ、日本音楽家ユニオンを中心とした実行委員会が主催。アフィニス文化財団、地響連、日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、日本フィルハーモニー協会が協賛した同フォーラムには全国各地のプロのオーケストラから約150人が出席した。当事者たちが一堂に会してオーケストラを取り巻く諸問題を話し合う初めての機会とあって新聞や専門誌等でも相次いで報じられた。



オーケストラ・フォーラム'89（1989年3月28日）
写真提供：朝日新聞社

当時日本音楽家ユニオン代表運営委員であった松本伸二は次のように振り返る。「オーケストラの労働条件を変えるには、自分たちが置かれている環境そのものを変えなければいけない。そのためには関係者が一堂に会して知恵を出し合う必要があると考え、参加を呼びかけたのです。ユニオンは経営者から見れば、細かいこと、難しいことを言う相手だったと思いますが、オーケストラが置かれている環境を考え、変えていくような大きな取り組みは一緒にやらなければならないと考えた。我々の呼びかけに地響連などが理解を示してくれました。」

フォーラムでは川口幹夫・NHK交響楽団

理事長が記念講演を行ない、日下文夫（群馬交響楽団チューバ奏者、日本音楽家ユニオンオーケストラ・合唱団支部協議会議長）が現状を報告。パネル討論には樽松三郎（新星日本交響楽団楽団長）、竹津宜男（札幌交響楽団事務局長）、岡山潔（読売日本交響楽団第1コンサートマスター）、小泉博（芸団協専務理事）、三木稔（作曲家）、秋山邦晴（評論家）、丘山万里子（評論家）が参加し、松本が司会を務めた。

「力を蓄え応援者を増やそう」

討論では公的助成の拡充や、著作隣接権の拡大などの諸問題が話し合われた他、多様な視点からの問題提起や提言があった。

川口は講演で公的資金の獲得について「オーケストラが力を蓄えて応援者を増やすことが、結果的に多くの補助を得ることにつながる」と話し、企画力や広報、発信力の強化が求められると指摘した。

読響の岡山は日本のオーケストラが演奏の正確さ等で評価される一方、演奏に対して受け身の姿勢が見えると、「自分たちの響きのイメージを持たなければならない」と述べた。

竹津は米国の状況を参照し税制改正の必要性を強調。丘山は聴衆側の問題にも言及し「自分たちの耳を持つことが大切」だとし、「『日本人にしかできない西洋音楽』をやるうとする演奏家側の意識も必要」とした。

秋山は「オーケストラは時代への対応に努力すべきだ」と指摘。また大手広告代理店等による「操作されたブーム」に警鐘を鳴らした。

約3時間の討論の後、①公的助成の確立と内容の充実 ②実演家の著作隣接権を私的録音・録画等に拡大し、ローマ条約加入を果たす③外来演奏団体の招請制度の検討 ④民間の音楽芸術に対する援助活動に税制面での優遇措置を講じる——の4項目からなるアピールを採択し閉会。実行委

員らは後日文化庁を訪れ、フォーラムの模様を報告しこのアピールを手渡している。

第2回は交響連も実行委に

フォーラムは91年まで計3回開催され、90年2月11日に行なわれた第2回は交響連、地響連両者が日本音楽家ユニオンオーケストラ・合唱団支部協議会とともに実行委に名を連ね、N響の川口理事長が実行委員長を務めた。評論家の加藤周一の記念講演の後、主に同年創設の芸術文化振興基金について討議。将来的な増額と民間助成促進のための税制改正、オーケストラ等の集団的舞台芸術団体へ重点を置き、運営基盤を直接援助する助成、日本の現代芸術育成のための多面的な施策などを求めるアピールを採択した。

91年は池上惇（京都大学経済学部教授）、岡村喬生（オペラ歌手）、外山雄三（指揮者）、萩元晴彦（カザルスホール・プロデューサー）、三善晃（作曲家）がパネリストとして参加し、「二国（新国立劇場）問題」を中心に話し合われた。

「方向性見いだせた」

松本は「様々な分野の第一線の方々に参加し発言いただいたのは画期的なことでした。日本の音、日本のオーケストラならではの音を各楽団が持ち、オーケストラの聴衆を育てることが大切で、助成によって文化をみんなまで守っていこうという方向性が見いだせた」と3回のフォーラム振り返った。

第1回フォーラムから36年経過した今、当時の諸問題はどれほど解決を見ているだろうか。（文中敬称略）

*主な参考資料（オーケストラ・フォーラム）関連記事掲載
・「バイパス」1989年5月号
・「音楽芸術」1989年7月号「主催者側からの報告」（松本伸二）
・「Orchestra」1989年夏号
・「音楽ユニオン」1989年4月号、1991年4月号
・「未来にとどけ、音。音楽ユニオンのあゆみ」2015年、日本音楽家ユニオン発行

NHK交響楽団 ヨーロッパ公演 2025

5月11日、マーラー・フェスティバル（アムステルダム・コンサートヘボウ） ©Milagro Elstak

NHK 交響楽団は 2025年5月、5年ぶりとなるヨーロッパ公演を実施し、ベルギー（アントワープ）、オランダ（アムステルダム）、オーストリア（ウィーン、インスブルック）、チェコ（プラハ）、ドイツ（ドレスデン）の5か国6都市を巡りました。首席指揮者ファビオ・ルイージとの初の欧州ツアーで、得意とするマーラーとブラームスを中心に構成された5つのプログラムを携え、全8公演を行いました。



5月15日、プラハの春音楽祭（ルドルフィナム）
©Prague Spring Festival / Petra Hajská

ツアーの中でも特に印象的だったのは、ヨーロッパの著名な音楽祭への出演です。「プラハの春音楽祭」や「ドレスデン音楽祭」に加え、アムステルダムで開催された「マーラー・フェスティバル 2025」では、ベルリン・フィル、シカゴ交響楽団、地元のロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団などとともに、マーラーの全交響曲を演奏。N響は、女声合唱と児童合唱を伴う大編成の《第3番》、そしてN響の前身、新交響楽団が世界全曲初録音を行った《第4番》を担当し、気迫あふれる熱演で満場の聴衆からスタンディング・オベーションとブラボーの歓声を受けました。この演奏は、会場だけでなく、公園でのパブリック・ビューイングや現地放送局による生放送、ストリーミング配信を通じて、世界中に届けられました。

長距離移動が続くツアーの日々もオーケス

ラは常に高い集中度を保ち、ほとんどの会場でチケットがほぼ完売となる中、集まった熱心な聴衆の期待に応え続けます。現地メディアでも、ルイージとN響の演奏は高く評価されましたが、一方でヨーロッパにおける知名度の課題も浮き彫りとなり、国際的な存在感を高めるためには、継続して海外公演を行うことの大切さを改めて認識しました。

今回のツアーでの反響と経験は、私たちに確かな手応えをもたらし、2026年に創立100年を迎えるN響の次なるステージへの糧となったと言って間違いありません。

NHK 交響楽団 企画プロモーション部
吉賀 亜希

N響ヨーロッパ公演2025の報告と演奏会評はN響ホームページで詳しくご紹介しています。



『田邊 稔の日本フィル物語』は、 絶望を希望に変える生き方の記録

やぎりんめい
八木 倫明

コントラバス奏者の田邊さんは、オーケストラの解散を、二度体験された。最初は東京交響楽団に入団後ほぼ1年の1964年3月。東響は楽員らが株式会社を組織して再スタートし、田邊さんは先輩の指名により役員となった。しかし同年7月に、日本フィルに移籍。8年後の1972年に、今度は日本フィルが解散。

そのころ山形県で中学生だったボクは、サングラスをかけた小澤征爾が昭和天皇に「日本フィルを助けてください」と直訴、という記事を新聞で見た。日本を代表するオーケストラで大変なことが起きていることを知る。しかし日本フィルは解散。そして、二つに分かれてしまった。

ボクは大卒後1981年春に、まだ争議中の日本フィルの事務局に入った。就職の面接をしてくれたのが田邊さん。首席コントラバス奏者を降りて、運営委員長の仕事に専

念し始めた頃だったと思う。

この本は、オーケストラの解散と分裂、再建を目指す闘い、という前代未聞の逆境に立ち向かう音楽家たちの苦悩と喜びを生々しく描く。その生き方と、そこから生まれる熱い音に共感する人々との連帯の物語である。

田邊さんは、オーケストラの経営者に転身して、何を考え、何と闘い、何をよりどころにして生きていたのか？演奏するだけの演奏家から、社会的役割を果たす音楽家へといかにして変わったのか？

12年に及ぶ裁判闘争を「自分自身とのあまりにも困難な闘い」と振り返る言葉は、詩人のようでもあり、哲学者のようでもある。挫けそうな心を支えたのは、オケの仲間との信頼、支援者たちとの連帯、そして音楽そのものだったろう。

一人の音楽家の生き方から見てくる、オーケストラのあるべき姿。類い稀な体験

の中での人間的な苦悩、楽団再建に協力する人々の歴史的運動。共感者との出会いと感謝。そして音楽を続ける意味は？オーケストラに生きるとは？

争議の終わりがすべての解決ではなく、田邊さんの壮絶な人生、音楽に支えられた生き方がその後も続く。

(やぎりんめい/作詞家、ケーナ奏者、元日本フィル事務局長)



ポトス出版 四六判264ページ 本体価格¥1500(十税)
ISBN 978-4-901979-57-3 C0073 ¥1500E
Amazon、書店でもお取り扱い中

日本オーケストラ連盟創立35周年記念

オーケストラの日 ALL STAR!!

2026年3月31日(火)

19:00 開演(18:00開場)

ミュゼ川崎シンフォニーホール

40 全国プロ・オーケストラ × 4 人を代表する日本の指揮者

北は札幌から南は福岡まで、日本オーケストラ連盟加盟の全国プロ・オーケストラ40楽団の精鋭たちによる特別編成の「オーケストラの日オールジャパン祝祭管弦楽団」と、(4人の指揮者)の一夜限りのコンサートです。

指揮 **角田 鋼亮**

芥川也寸志/交響管弦楽のための音楽

すぎやまこういち/

交響組曲「ドラゴンクエスト III」そして伝説へ… より「ロトのテーマ」

交響組曲「ドラゴンクエスト IV」導かれし者たち より「海図を広げて」

交響組曲「ドラゴンクエスト XI」過ぎ去りし時を求めて より「過ぎ去りし時を求めて」

一夜限りの
コンサート!



チケット発売中!

S 席 : 4,500円

S 席 ペア : 7,000円

ジュニア : 1,000円

(小学生~高校生)

A 席 : 3,500円

B 席 : 2,000円

S,A,B
どのお席でも!

指揮 **藤岡 幸夫**

グリーグ/2つの悲しい旋律 第2番「過ぎし春」

シベリウス/交響詩「フィンランディア」

指揮 **三ツ橋 敬子**

ビゼー/カルメン第1組曲

指揮 **大友 直人**

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」1919年版

オーケストラの日
公式キャラ誕生!

プロフィール

音楽が大好き!

コンサートに行ったら
はオーケストラに夢中。
「自分もいつか大きな舞
台で演奏してみたい!」
と思っている。



オケマルくん



同日開催「0歳からのコンサート」10:30開演 入場無料

※詳細は特設サイトで順次お知らせ

チケットのご購入/
特設サイトはこちら

<https://www.orchestra.or.jp/orchestraday2026/>



主催:公益社団法人日本オーケストラ連盟 後援:川崎市、「音楽のまち・かわさき」推進協議会 助成:公益財団法人朝日新聞文化財団
協力:日本音楽財団(日本財団助成事業)、ミュゼ川崎シンフォニーホール

アジア太平洋地域 オーケストラ・サミット Japan

日本やアジア太平洋地域各地よりオーケストラ関係者が集い、
オーケストラの未来を語り合います

主催:公益社団法人日本オーケストラ連盟 共催:ミュゼ川崎シンフォニーホール
後援:川崎市、「音楽のまち・かわさき」推進協議会

2026年3月30日(月)、3月31日(火)、4月1日(水)

ミュゼ川崎シンフォニーホール 企画展示室、市民交流室



第1回東京サミット1997
すみだトリフォニーホール小ホール



マカオ・サミット2012
ウエスティン・リゾート・マカオ



東京サミット2016
東京オペラシティ リサイタルホール



上海サミット2018
上海フィルハーモニック管弦楽団事務棟



〈令和8年度文化庁概算要求〉

令和8年度の概算要求の内容が発表された。文化庁全体の概算要求額は本年度の予算額と比較して337億の増額（31.6%）の1,400億円を要求しており、オーケストラに関わりのある重要な助成項目「舞台芸術等総合支援事業」については、昨年度の93億円から101億円と8億円の増額要求となっている。主な項目については以下のとおり。

(1) 芸術団体の主催公演などに対して助成される「舞台芸術等総合支援事業」のうち、〈創造団体向け支援〉および〈我が国を代表する芸術団体等支援〉については、昨年度の概

算要求額と同額の30億円が計上されているが、昨今の物価高騰などの状況を踏まえると、実質的には減額とみられる内容となっている。

(2) 〈学校巡回公演〉についても、昨年度と同額の43億8,000万円が計上されている。ただし、公演数は1,860回からおよそ1,876回へと増加しており（うち、へき地等での公演は560回で昨年と同数）、こちらも同様に、実質的な減額といえる。

(3) 令和5年度より開始された「全国キャラバン」がなくなり、新たに〈劇場・音楽堂等と芸術団体との連携による

地域活性基盤形成支援事業〉が新設される。これは、優れた文化芸術団体（または統括団体）と地方の劇場・音楽堂等が事業提携を行い、文化芸術団体活動拠点を形成する取り組みに対し、一定期間継続的に支援するものであり、10億2,400万円が計上されている。

(4) 〈国際芸術交流支援〉は、海外公演活動支援14公演程度、国際共同制作支援3公演程度（3公演減）、国内開催の国際的なフェスティバル支援4公演程度について4億6,000万円と前年度と同額となっている。

フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2025の開催

ミュージア川崎シンフォニーホールおよび川崎市が共催する「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2025」は、7月26日（土）から17日間にわたり18公演を開催し、延べ約25,000人が来場した。チケット販売総数は23,879枚（1公演平均1,413枚）で、昨年と並ぶ過去最高水準を維持した。



東京交響楽団によるオープニングファンファーレ ©池上直哉

開幕公演では、音楽監督最終シーズンを迎えたジョナサン・ノット指揮 東京交響楽団が、ワーグナー《言葉のない指環》を採り上げ、続く高関健指揮 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団はマーラー《交響曲第1番「巨人」》（2019年クーベック校訂版・日本初演）、沼尻竜典指揮 神奈川フィルハーモニー管弦楽団による渾身の《トゥランガリーラ交響曲》など、重量級の

プログラムが展開された。さらに、首席指揮者・太田弦とともに登場した九州交響楽団が初出演を果たし、ショスタコーヴィチ《交響曲第5番》などで盛大な拍手を浴びた。

フィナーレは、原田慶太楼指揮 東京交響楽団がニールセン《交響曲第4番「不滅」》などを熱演し、満場の喝采に包まれて音楽祭が締めくくられた。

アフィニス夏の音楽祭 2025 かがわの開催

全国のプロフェッショナル・オーケストラのメンバーと、世界の名門オーケストラの奏者が一堂に会し、室内楽の名曲に取り組む、日本で唯一のセミナー形式による音楽祭「アフィニス夏の音楽祭2025かがわ」が、昨年に続き香川県を会場として、8月13日（水）から8月21日（木）までの9日間にわたり実施された。



あいうえ音楽会では狂言師の山下浩一郎氏と共演 ©三浦興一

音楽監督は川崎洋介氏（ナショナルアーツセンター管弦楽団〈カナダ〉コンサートマスター）が務め、さらにヘンリック・ホッホシルト氏（ライブツイヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団コンサートマスター）をはじめとする6名の招聘演奏家が参加。これに加え、日本のプロフェッショナル・オーケストラ14団体から選抜された奏者24名、運営スタッフ13名、さらに地元大学生のサポートが加わり、音楽交流プログラム、室内楽演奏会、公開セミナーおよびワークショップが行われた。

豊かな表現力と高水準の室内楽演奏会が開催される一方で、音楽交流プログラムの一環として行われた「あいうえ音楽会」では、高松交響楽団、かがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ、台湾の桃園市立武陵高級中学校管弦楽団が共演し、国や世代を超えた音楽交流が実現した。

表彰・受賞

第59回ブザンソン国際若手指揮者コンクールで米田覚士氏が優勝

フランス東部の都市ブザンソンで9月27日に行われた「ブザンソン国際若手指揮者コンクール」の決勝で、岡山県出身の指揮者・米田覚士（よねだ・さとし）氏（29

歳)がグランプリに輝いた。日本人の優勝は2019年の沖澤のどか氏以来で、通算11人目となる。

米田氏は幼少期からピアノに親しみ、東京藝術大学指揮科を卒業。2021年の東京国際音楽コンクール(指揮)(現・東京国際指揮者コンクール)では入選と奨励賞を受けするなど、国内外で着実に実績を積んできた。

本選の審査で、米田氏は審査員団の満場一致でグランプリに選出。若手指揮者にとっての重要なステップである本コンクールでの受賞を機に、今後の国際的な活躍が期待される。

第76回プラハの春国際音楽コンクール チェロ部門で水野優也氏が優勝

チェコの首都プラハで開催された第76回プラハの春国際音楽コンクール(チェロ部門)の本選において、水野優也(みずの・ゆうや)氏(27歳)が第1位に輝いた。水

野氏には副賞として、来年開催される「プラハの春国際音楽祭」での演奏機会が与えられている。

「プラハの春国際音楽コンクール」は、1947年に指揮者ラファエル・クーベリックらによって創設された、チェコを代表する伝統ある国際コンクール。

エリザベート王妃国際音楽コンクール 2025で久末航氏が第2位

世界三大音楽コンクールのひとつに数えられる「エリザベート王妃国際音楽コンクール」の2025年大会(ピアノ部門)で、久末航(ひさすえ・わたる)氏(30歳)が第2位に輝いた。

ベルギーの首都ブリュッセルで開催されるこのコンクールは、歴史と権威を誇り、これまでも多くの世界的音楽家を輩出してきた。

セミファイナルを勝ち抜いた12名のファイナリストのうち、亀井聖矢氏、桑原志織氏、

久末航氏、吉見友貴氏の日本人4名が同時にファイナルへ進出するという、コンクール史上でも異例の快挙となった。

その後行われたファイナル審査の結果、世界最高峰の難関として知られるこのコンクールで、久末氏が第2位、亀井氏が第5位に入賞した。

第19回ショパン国際ピアノ・コンクール 2025 第4位に桑原志織氏

世界三大ピアノコンクールのひとつに数えられる「第19回ショパン国際ピアノ・コンクール」がポーランド・ワルシャワで開催された。今大会は過去最多の642名が応募し、厳しい審査を経て11名が本選に臨んだ。

日本からは桑原志織(くわはら・しおり)氏(30歳)、進藤実優(しんどう・みゆ)氏(23歳)がファイナリストとして本選に進出し、桑原志織氏が第4位に入賞した。優勝はアメリカのエリック・ルー氏。



リレーエッセイ

日本オーケストラ連盟事務局員(2025年9月入職)
望月 幸史



PROFILE 学習院大学文学部哲学科卒。在学中に日本フィルハーモニー交響楽団でインターンシップを経験。大学卒業後はビルメンテナンス業界で約10年間、営業・現場マネジメントに携わる。週末は趣味のオーケストラや室内楽でチェロを演奏している。

はじめまして、望月幸史と申します。2025年9月より日本オーケストラ連盟の事務局員として務めております。前職では約10年間、ビルメンテナンス業界で社会の基盤を支える「裏方」に尽力しておりました。この度オーケストラの世界に飛び込むこととなり、身の引き締まる思いです。

学生時代に読んだハンナ・アーレントの『人間の条件』は、人間の営みを「労働」「仕事」「活動(action)」に分類しました。中でも「活動」を可能にする「複数性(plurality)」の概念は、アーレントの独特な視点です。人間が唯一無二の存在でありながら「複数」であること、その多様性が他者と共に行動し新たな現実を創

造する。多様な人々がそれぞれの音色を持ち寄り、一つの壮大なハーモニーを創り出すオーケストラの営みこそ、まさにこの「複数性」を最も美しく体現する場だと直感しました。

私がオーケストラ連盟で目指すのは、前職で培った「裏方」として社会を支える視点と、チェロを通じて培った音楽への情熱を土台に、この「活動」としてのオーケストラ文化を力強く育むことです。オーケストラは単なる芸術団体ではなく、演奏家、スタッフ、そして聴衆と、多様な人々が互いの存在を尊重し、感動を共有するかけがえのない共同体だと確信しております。

私自身、週末はアマチュアオーケストラや室内楽でチェロを演奏し、多様な楽器の音が重なり合うことで生まれる響きの豊かさや、仲間と共に音楽を創り上げる喜びを肌で感じてきました。一人では成し得ない、個性豊かな「複数性」の力が、オーケストラという芸術を支えています。

この連盟の一員として、人間の「複数性」が尊重され、より豊かな響きを奏でる場としてのオーケストラが、社会の中で一層確固たる存在となり、より多くの人々に喜びと感動を届けられるよう、誠心誠意、尽力してまいります。これからどうぞよろしくお願いいたします。

Concert information

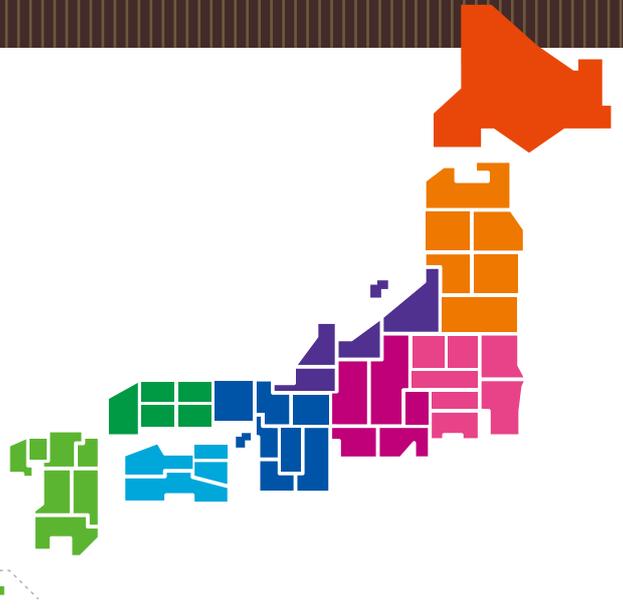
2025.12 ~ 2026.3

加盟オーケストラの2025年10月時点での情報です。

今後の状況により変更を余儀なくされる場合もございますので、

コンサート実施の最新情報はそれぞれのオーケストラのホームページ等で

ご確認くださいませようお願い申し上げます。



■ 正会員 ■ 準会員

札幌交響楽団 <https://www.sso.or.jp/>

お問合せ 011-520-1771

【定期演奏会】札幌コンサートホールKitara 土 17:00開演/日 13:00開演

<p>第674回</p> <p>●2026/1/31(土)、2/1(日)</p> <p>指揮:エリマス・グランディ(首席指揮者) バリトン:ベンヤミン・アップル</p> <p>武満徹/ア・ウェイ・ア・ローンII マラー/さすらう若人の歌 R.シュトラウス/交響詩「英雄の生涯」</p>	<p>第675回</p> <p>●3/7(土)、8(日)</p> <p>指揮:尾高 忠明(名誉音楽監督) ピアノ:鈴木愛美 <small><第12回 浜松国際ピアノコンクール 第1位></small></p> <p>シューマン/ピアノ協奏曲 エルガー/交響曲第2番</p>
---	---

<前売1回券> SS 7,500円/S 6,500円/A 5,500円/B 4,500円/C 3,500円/U25割(B,C)1,000円

東京公演2026 ●2/5(木) 19:00開演 サントリーホール 第674回定期演奏会と同内容
料金等詳細は札幌公式HPでご確認ください。

【hitaruシリーズ定期演奏会】札幌文化芸術劇場hitaru 19:00開演
プレトーク 18:45~

<p>第23回</p> <p>●12/23(火)【広上×ラフ2】</p> <p>指揮:広上 淳一(友情指揮者) ヴァイオリン:米元 響子</p> <p>尾高惇忠/ヴァイオリン協奏曲 ラフマニノフ/交響曲第2番</p>	<p>第24回</p> <p>●2026/3/19(木)【オケコンは大植英次】</p> <p>指揮:大植 英次 トランペット:児玉 隼人</p> <p>小倉朗/管弦楽のための舞踊組曲 ハイドン/トランペット協奏曲 バルトーク/管弦楽のための協奏曲</p>
---	--

<前売1回券> S 6,500円/A 5,000円/B 3,500円/U25割(A,B)1,000円/プレミアム 8,000円(ローゼン限定販売)

【森の響フレンド名曲コンサート】札幌コンサートホールKitara 14:00開演

アキラさん流アナーゼ
バレンタイン♡スベシャル

気軽にオーケストラを楽しんでいただくコンサートシリーズ。
2月はアキラさんの楽しいお話とともに音楽の世界へ。

●2026/2/14(土) 指揮:宮川 彬良 構成:新井 鷗子

宮川彬良作・編曲/風のオリヴァストロ、春!(ヴィヴァルディ/「四季」より)、英雄
ボロネーズ、さよならをもう一度(ブラームス/交響曲第3番第3楽章)、愛のシ
ンフォニー(ラフマニノフ/交響曲第2番第3楽章)、シンフォニック・マンボ・ナン
バー5、砂山、シャボン玉、からたちの花、大きな古時計、いい日旅立ち世界旅行

<前売1回券> SS 5,500円/S 4,500円/A 3,000円/U25割(A)1,000円



札幌交響楽団 / 仙台フィルハーモニー管弦楽団 / 東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

仙台フィルハーモニー管弦楽団 <https://www.sendaiphil.jp/>

お申し込み・お問合せ 022-225-3934
仙台フィルサービス (受付 平日10:00~18:00)

定期演奏会 会場:日立システムズホール仙台 コンサートホール 金曜日/19:00開演 土曜日/15:00開演

【全席指定】 S席:¥5,100 S席ユース:¥2,000 A席:¥4,600 A席ユース:¥1,500 Z席:¥2,000 ※ユース:演奏会当日25歳未満の方が対象

<p>第387回 1月23日(金)・24日(土)</p> <p>指揮:沼尻 竜典 ソプラノ:伊藤 晴</p> <p>ラヴェル:組曲「マ・メール・ロワ」 ラヴェル:歌曲集「シェエラザード」 シューマン:交響曲第2番 長調 作品61</p>	<p>第388回 2月20日(金)・21日(土)</p> <p>指揮:太田 弦(仙台フィル指揮者) ピアノ:モナ・飛鳥</p> <p>フォーレ:組曲「ペレアスとメリザンド」作品80 ラヴェル:ピアノ協奏曲 長調 ブルックナー:交響曲第0番 二短調 WAB.100</p>	<p>第389回 3月13日(金)・14日(土)</p> <p>指揮:高関 健(仙台フィル常任指揮者) チェロ:上野 通明</p> <p>伊福部昭:室内オーケストラのための土俗的三連画 ルトスワフスキ:チェロ協奏曲 チャイコフスキー:交響曲第4番 へ短調 作品36</p>
---	--	---



東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団 <http://www.uniphil.gr.jp>

お問合せ 03-3766-0876

東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

初夢コンサート 2026

1/11(日) 13:00開演 大田区民ホール・
(12:30開場) アプリコ大ホール

指揮:松岡 究
(ゲスト)山崎由美(ヴァイオリン)
三好 愛(バイオリン)

無休曲集出演
東京高等学校吹奏楽部
大田ジュニアオーケストラ

※A席は自由席(その他指定席)

チケット
[SS席] ¥5,000
[S席] ¥4,000
[A席] ¥3,000 (前売 ¥2,500)
[SS席前売] ¥9,000 (税込)

お問い合わせ ユニフィル事務局 03-3766-0876 <http://www.uniphil.gr.jp>

山響 2025 season “伝説・伝承=Legends”

定期演奏会 [会場] 山形テルサ [開演] 土曜19:00 / 日曜15:00
[チケット料金] A席:5,500円 B席:5,000円 学生(B席):3,000円 Bペア:9,000円

第330回 2月7日(土)・8日(日)

指揮:鈴木 秀美 ソプラノ:中江 早希 アルト:谷地 敬 晶子
テノール:中嶋 克彦 バリトン:深瀬 廉 合唱:山響アマテウスコア
モーツァルト:行進曲 二長調 K.249
モーツァルト:セレナード 第7番 二長調「ハフナー」K.250 第1楽章
モーツァルト:交響曲 第35番 二長調「ハフナー」K.385
モーツァルト:レクイエム 二短調 K.626 (レヴィン版)



第331回 3月7日(土)・8日(日)

指揮:大植 英次 ヴァイオリン:前田 妃奈
エルガー:弦楽セレナード 短調 作品20
チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
ベートーヴェン:交響曲 第4番 変ロ長調 作品60



(お問合せ・お申し込み) 山響チケットサービス TEL:023-616-6607 (平日:10:00~17:00)

庄内定期演奏会 第30回 酒田公演

[チケット料金] A席:5,500円 B席:5,000円
学生(B席):2,500円 Bペア:9,000円

3月14日(土)15:00開演

酒田市民会館 希望ホール

指揮&ヴァイオリン:徳永 二男

プロコフィエフ:
交響曲 第1番 二長調「古典」
作品25

メンデルスゾーン:
ヴァイオリン協奏曲 短調
作品64

ベートーヴェン:交響曲 第5番 短調「運命」作品67



2025-26 定期演奏会 後期シーズン 80周年記念演奏会

第614回 1月25日(日) 開演16:00 高崎芸術劇場 大劇場

指揮/ヤン・ヴィレム・デ・フリント
ヴァイオリン/池田美代子(群馬首席奏者)*
クラリネット/田村知子(群馬首席奏者)*
山田耕祐/序曲 二長調 (1912)
ブルッフ/クラリネットとヴィオラのための協奏曲 短調 作品88*
シューベルト/交響曲 第8番 長調 D944「ザ・グレート」

第615回 2月21日(土) 開演16:00 高崎芸術劇場 大劇場

指揮/クリスティアン・アルミンク、ピアノ/エリック・ルー*
ソプラノ/渡邊仁美(ジークムント)**、テノール/村上敏明(ジークムント)**
バスバリトン/志村文彦(ファンディング)**、共演:広島交響楽団メンバー
細川俊夫/室内オーケストラのための《森のなかで》(2024)
ラヴェル/左手のためのピアノ協奏曲*
ワーグナー/楽劇《ワルキューレ》第1幕(演奏会形式・字幕付)(広島交響楽団共同制作)**

ベートーヴェン交響曲全曲演奏会 第3回

2月15日(日) 開演16:00 高崎芸術劇場 大劇場
指揮/フランチェスコ・アンジェリコ、ピアノ/ティル・フルナー*
ベートーヴェン/交響曲 第8番 長調 作品93
ピアノ協奏曲 第4番 長調 作品58*
交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

ベートーヴェン交響曲全曲演奏会 第4回

3月22日(日) 開演15:00 昌賢学園まえばしホール 大ホール
指揮/ピエタリ・インキネン
ベートーヴェン/交響曲 第6番 長調 作品68「田園」
交響曲 第7番 長調 作品92 ほか

第616回 3月28日(土) 開演16:00 高崎芸術劇場 大劇場

指揮/飯森範親(群馬常任指揮者)、ヴァイオリン/伊藤文乃(群馬ソロ・コンサートマスター)*
クラリネット/西川智也(群馬首席奏者)、ハープ/篠崎和子*
ソプラノ/小林沙羅**、メゾソプラノ/山下裕賀**、テノール/村上公太**、
バリトン/大西宇宙**、合唱/国立音楽大学(合唱指揮/キハラ良尚)**

東京定期演奏会 3月29日(日) 開演15:00 東京芸術劇場 コンサートホール

西村 剛/三重協奏曲「胡蝶夢」ヴァイオリン、ハープ、
クラリネットと管弦楽のための(2023)*
ベートーヴェン/交響曲 第9番 短調 作品125「合唱付」**

各コンサートの詳細・チケットについては群馬 Web サイトをご覧ください。群馬交響楽団事務局(平日10:00~18:00)027-322-4944(チケット専用電話)

2025-26シーズン定期公演 WINTER(2025年12月-2026年2月)

Aプログラム

NHKホール

土 18:00
日 14:00

第2051回 | 11/29(土), 30(日)

指揮:ファビオ・ルイーゼ
ヴァイオリン:レオニダス・カヴァコス
シヨスタコヴィチ/
ヴァイオリン協奏曲 第1番
ツェムリンスキー/交響詩人魚姫

第2054回 | 1/17(土), 18(日)

指揮:トゥガン・ソヒエフ
マーラー/交響曲 第6番「悲劇的」

第2057回 | 2/7(土), 8(日)

指揮:フィリップ・ジョルダン
ソプラノ:タマラ・ウイソソ*
シューマン/交響曲 第3番「ライン」
ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」
—ジークフリートのラインの旅、ジークフリートの
葬送行進曲、「ブリュンヒルデの自己犠牲」*

Bプログラム

ザントリーホール

木 19:00
金 19:00

第2052回 | 12/4(木), 5(金)

指揮:ファビオ・ルイーゼ
ピアノ:トム・ボロ、オルガン:近藤 岳
藤倉大管弦楽のためのオンジャン・ブレイカー
—ピエール・ブレスの思い出に—
フランク/交響的変奏曲*
サン・サーンス/交響曲 第3番「オルガン」

第2056回 | 1/29(木), 30(金)

指揮:トゥガン・ソヒエフ
ピアノ:松田華音
ムルグスキー(シヨスタコヴィチ編)/
歌劇「ホヴァンシチナ」から
シヨスタコヴィチ/ピアノ協奏曲 第2番
プロコフィエフ/交響曲 第5番

第2059回 | 2/19(木), 20(金)

指揮:ヤクブ・フルジャ
ヴァイオリン:ヨゼフ・シュパチェク
ドヴォルザーク/ヴァイオリン協奏曲
ブラームス/セレナード 第1番

Cプログラム

NHKホール

金 19:00
土 14:00

第2053回 | 12/12(金), 13(土)

指揮:ファビオ・ルイーゼ
ピアノ:第19回シヨパン国際
ピアノコンクール優勝者
シヨパン/ピアノ協奏曲 第1番 または
ピアノ協奏曲 第2番
ニルセン/交響曲 第4番「不滅」

第2055回 | 1/23(金), 24(土)

指揮:トゥガン・ソヒエフ
チェロ:上野通明
ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲
デュティユー/
チェロ協奏曲「遙かなる遠い国」
ストラヴィンスキー
バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)ほか

第2058回 | 2/13(金), 14(土)

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ
トランペット:菊本和昭(N響首席トランペット奏者)
—N響100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」
フンメル/トランペット協奏曲
ムルグスキー(近衛秀麿編)/
組曲「展覧会の絵」ほか

特別公演

N響ドラゴングエスト・コンサート

2/27(金) 19:00 東京芸術劇場
2/28(土) 14:00 パルテノン多摩
3/1(日) 15:00 森のホール21
指揮:下野竜也

N響大河ドラマ&名曲コンサート

3/5(木) 19:00 NHKホール
指揮:沖澤のどか

Follow us on

nhkso.or.jp



やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合のぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

2025年度 モーニング・コンサート

第11回	第12回	第13回
2026年 2月5日(木)	2026年 2月19日(木)	2026年 3月19日(木)
指揮:山下 一史 ソプラノ:吉田 早奈恵 ピアノ:佐藤 颯海	指揮:山下 一史 ピアノ:小形 然、新島 麻里菜 コントラバス:水野 斗希	指揮:現田 茂夫 ホルン:多田 凌吾 ヴァイオリン:吉田 紫花
東京藝術大学演奏堂 11:00 開演 全席指定 1,500円		

2026年度 主な演奏会のご案内

- モーニング・コンサート (シリーズ)
- 定期演奏会 (4月, 11月)
- 新卒業生紹介演奏会 (5月)
- オペラ定期公演 (10月)
- 合唱定期演奏会 (11月)



その他、メリア公演、「第九」公演等も予定しております。

詳細はWEBサイトをご覧ください。
<https://www.geidaiphil.geidai.ac.jp/>

2025/2026シーズン定期演奏会、チケット好評販売中!

すみだクラシックへの扉 第37回

第668回定期演奏会

3/13 (金) 14:00 すみだトリフォニーホール
3/14 (土) 14:00 すみだトリフォニーホール

指揮: 佐渡 裕
ヴァイオリン: ヒルマン聡平 (NJP 首席第2 ヴァイオリン奏者)*
ヴィオラ: 瀧本麻衣子 (NJP 首席ヴィオラ奏者)*

モーツァルト: ヴァイオリンとヴィオラのための
協奏交響曲 変ホ長調 K.364*

ベルリオーズ: 幻想交響曲 op.14 (H.48)



3/21 (土) 14:00
すみだトリフォニーホール

3/22 (日) 14:00
サントリーホール

指揮: 佐渡 裕

マーラー:

交響曲第6番 イ短調「悲劇的」



一般 ¥5,500 A ¥2,800 シニア (65歳以上) ¥4,000
U25 (25歳以下) ¥2,000 A ¥1,000
墨田区在住・勤 および賛助会員 ※ ¥3,000 A ¥1,500
※新日本フィル・チケットボックスでお取扱い

3/21 (土) SS ¥11,000 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥5,000 C ¥4,000
U25・S席 ¥2,000 U25・A~C席 ¥1,000
3/22 (日) SS ¥12,000 S ¥9,000 A ¥7,500 B ¥5,500 C ¥4,500
P ¥4,000 U25・S席 ¥2,000 U25・A~P席 ¥1,000

東京交響楽団 <https://tokyosymphony.jp>

お問合せ 044-520-1511

いざ新境地へ

THE 協奏曲

正指揮者原田慶太楼 定期演奏会

12月13日(土) 18:00
サントリーホール

指揮=ロス・ジェイミー・コリンズ
ヴァイオリン=大谷康子

《大谷康子 デビュー 50周年記念》

マルサリス: ヴァイオリン協奏曲 ニ調

コーブランド: 交響曲 第3番

2026年3月14日(土) 14:00
ミュゼザ川崎シンフォニーホール

指揮=藤岡幸夫 ヴァイオリン=若尾圭良
チェロ=佐藤晴真 ピアノ=福岡光太郎

プロコフィエフ: ヴァイオリン協奏曲 第2番

ドヴォルザーク: チェロ協奏曲 口短調

サン=サーンス: ピアノ協奏曲 第5番「エジプト風」

2026年3月28日(土) 18:00
サントリーホール

指揮=原田慶太楼 カウンターテナー=彌勒忠史
合唱=東響コーラス 合唱指揮=根本卓也

コーブランド: アメリカの古い歌「第1集」

バーンスタイン: チェスター詩篇

ショスタコーヴィチ: 交響曲 第5番



S 7,500円 A 6,500円 B 5,500円
C 4,500円 P 3,000円

S 7,500円 A 6,500円 B 4,500円
C 3,500円 P 3,000円

S 8,500円 A 6,500円 B 5,500円 C 4,500円

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 <https://www.cityphil.jp/>

お問合せ 03-5624-4002

第九特別演奏会2025

2025年12月28日(日) 15時開演

東京文化会館 大ホール

指揮: 高関 健 (常任指揮者)
ソプラノ: 中江 早希 メゾ・ソプラノ: 相田 麻純
テノール: 小堀 勇介 バリトン: 大沼 徹

合唱: 東京シティ・フィル・コア (合唱指揮: 藤丸 崇浩)

L.v. ベートーヴェン /

交響曲第9番 ニ短調 作品125「合唱付き」



S席 ¥9,000 A席 ¥7,000 B席 ¥5,000
C席 ¥4,000 (全席指定・税込)

プラチナ S席 ¥8,000 プラチナ A席 ¥6,000
(60歳以上・税込)

U20 ¥2,000 U30 ¥3,000 (座席指定不可・税込)

相互物産 Presents ハイアウト リーゼンシー 東京ベイ
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 50周年記念特別演奏会
ニューイヤーコンサート「三大テノールの宴」

2026年1月8日(木) 19時開演

東京文化会館 大ホール

指揮: 藤岡 幸夫 (首席客演指揮者)

テノール: 福井 敬 村上 敬明 笹田 博昭

ブッチェーニ / 歌劇「トスカ」より「妙なる調和」

ヴェルディ / 歌劇「アイダ」より「清きアイダ」

ヴェルディ / 歌劇「リゴレット」より「女心の歌」

ブッチェーニ / 歌劇「トゥーランドット」より

「誰も寝てはならぬ」 (ほか)



S席 ¥6,000 A席 ¥5,000 B席 ¥4,000 C席 ¥3,000
(全席指定・税込)

50周年記念特別演奏会

2026年2月11日(水・祝) 14時開演

サントリーホール 大ホール

指揮: 高関 健 (常任指揮者)

マーラー / 交響曲第6番 イ短調「悲劇的」

2026年3月31日(火) 19時開演

サントリーホール 大ホール

指揮: 高関 健 (常任指揮者)

ソプラノ: 森野 美咲 メゾ・ソプラノ: 加納 悦子

合唱: 東京シティ・フィル・コア (合唱指揮: 藤丸 崇浩)

マーラー / 交響曲第2番 ハ短調「復活」

1公演券 S席 ¥10,000 A席 ¥9,000 B席 ¥8,000 C席 ¥7,000
(全席指定・税込)

プラチナ S席 ¥7,500 プラチナ A席 ¥6,500 (60歳以上・税込)

U20 ¥3,000 U30 ¥4,000 (座席指定不可・税込)

2公演セット券 S席 ¥15,000 A席 ¥13,500 B席 ¥12,000 C席 ¥10,500 (全席指定・税込)

プラチナ S席 ¥11,250 プラチナ A席 ¥9,750 (60歳以上・税込)

千葉交響楽団 <https://chibakyo.jp/>

お問合せ 043-222-4231

第121回定期演奏会「未来をひらく革新と伝統の名曲」

2026年2月15日(日) 14時開演 君津市民文化ホール(大ホール)



A. リード/大橋 一編曲: アルメニアン・ダンス パート1

トマジ: トロンボーン協奏曲

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 作品92

指揮: 山下 一史 (音楽監督)

トロンボーン: 箱山 芳樹 (千葉交響楽団楽団員)

入場料・全席指定 S席 4,000円 A席 3,000円 B席 2,000円



指揮: 山下 一史

トロンボーン: 箱山 芳樹

プロムナードコンサートNo.416

2026年3月8日(日) 14:00開演
サントリーホール

指揮/大野和士(都響 音楽監督)
チェロ/ゴータイエ・カブソン

メンデルスゾーン:

序曲《静かな海と楽しい航海》op.27

エルガー: チェロ協奏曲 ホ短調 op.85

メンデルスゾーン:

交響曲第4番

イ長調 op.90《イタリア》

S席¥7,000 A席¥6,000
B席¥5,000 P席¥3,500
シルバーエイジ(65歳以上) S席~B席2割引
U-25(25歳以下) S席~B席5割引



第1038回定期演奏会Aシリーズ

2026年3月4日(水) 19:00開演
東京文化会館

指揮/大野和士(都響 音楽監督)

ソプラノ/砂川涼子、メゾソプラノ/山下裕貴、

テノール/駒形貴之

合唱/新国立劇場合唱団 児童合唱/東京少年少女合唱隊

アンドレ・プレヴィン: 春遠からじ (2016) [日本初演]

ドビュッシー:

管弦楽のための《映像》より「春のロンド」

[プリテン没後50年記念]

プリテン: 春の交響曲 op.44

S席¥8,500 A席¥7,500 B席¥6,500
C席¥5,500 Ex席¥3,800
シルバーエイジ(65歳以上) S席~C席2割引
U-25(25歳以下) S席~C席5割引



2026-27 シーズン 定期会員券発売中/1回券 一般発売 2026年1月6日(火) 10:00

1月定期演奏会

1月23日(金) 19:00開演 サントリーホール

1月25日(日) 15:00開演 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

ピアノ: 五十嵐薫子*

レスピーギ/ピアノと管弦楽のためのトッカータ*

(日本・イタリア外交関係樹立160周年/レスピーギ没後90年)

マーラー/交響曲第1番『巨人』



2月定期演奏会

2月18日(水) 19:00開演 サントリーホール

2月23日(月・祝) 15:00開演 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

ヴァイオリン: 岡本誠司*

ウェーバー/歌劇『魔弾の射手』序曲(ウェーバー没後200年)

ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲第1番*

メンデルスゾーン/交響曲第3番『スコットランド』



第九特別演奏会2025

[全公演共通] S¥10,000 A¥9,000 B¥7,500 C¥6,000 P合唱団席
Ys(25歳以下)¥4,000 Gs(70歳以上)¥6,000(12/13除く、12/20完売)

12月13日(土) 15:00
横浜みなとみらいホール

[第413回横浜定期演奏会]

12月14日(日) 14:00

サントリーホール

指揮: 出口大地

ソプラノ: 砂田愛梨

メゾソプラノ: 山下裕貴

テノール: 石井基幾

バリトン: 高橋宏典

合唱: 東京音楽大学(12/13)、日本フィルハーモニー協会合唱団(12/14)

ウェーバー: 歌劇《オベロン》序曲

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》



12月20日(土) 14:00 サントリーホール

12月21日(日) 14:00 横浜みなとみらいホール

12月23日(火) 19:00 東京芸術劇場 [第258回芸劇シリーズ]

12月27日(土) 14:00 東京芸術劇場 [第259回芸劇シリーズ]

12月28日(日) 14:00 東京芸術劇場 [第260回芸劇シリーズ]

指揮: 小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

オルガン: 石丸由佳 ソプラノ: 小川奈葉 メゾソプラノ: 山下牧子

テノール: 錦織 健 バリトン: 寺田功治(12/20-23) 青山 貴(12/27,28)

合唱: 東京音楽大学(12/20,21)、武蔵野合唱団(12/23)、日本フィルハーモニー協会合唱団(12/27,28)

メンデルスゾーン: オルガンソナタ第1番よりアダージョ

バッハ: クリスマス・コラール《高き天よりわれは来たり》

J.S. バッハ: トッカータとフーガ ニ短調 BWV565 (以上3曲オルガン独奏)

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》



[お問合せ・お申込み] 日本フィル・サービスセンター TEL:03-5378-5911(平日10時~17時) 日本フィルeチケット <https://eticket.japanphil.or.jp>

第94回定期演奏会 愛知県芸術劇場コンサートホール

2026年1月8日(木) 開場:18:00 開演:18:45

指揮: 沼尻竜典

ヴァイオリン: 前橋汀子*

ブラームス: ヴァイオリン協奏曲*

ショスタコーヴィチ: 交響曲第15番



全席指定 SS席 8,000円/S席 6,000円/A席 4,000円/B席 3,000円
C席 2,000円/U25券半額(S~C席)/小中学生券500円(S~C席)

※愛知室内オーケストラチケット販売サイトの他、愛知芸術文化センタープレイガイド、アイ・チケット、チケットぴあでも取り扱っております。チケットぴあPコード: [第94回] 307-684 [第95回] 307-695
【主催】一般社団法人愛知室内オーケストラ ※未就学児のお子様のご入場はご遠慮ください

第95回定期演奏会 東海市芸術劇場 大ホール

2026年2月28日(土) 開場:13:15 開演:14:00

指揮: 山下一史(音楽監督)

ピアノ: 菊池洋子*

森田泰之進: 音信(おとづれ)

モーツァルト: ピアノ協奏曲第22番*

モーツァルト: 交響曲第39番



全席指定 一般席 5,000円/U25券 1,000円/小中学生券500円

チケット発売中

WEB チケット



チケットの
お申込みは
こちら

第178回定期演奏会

2025年12月18日(木) 開演19:00

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮=飯森範親
ソプラノ=小林沙羅/メゾ・ソプラノ=山下裕賀
テノール=西村 悟/バス・バリトン=平野 和
合唱=武蔵野音楽大学合唱団
パシフィックフィルハーモニア東京クワイア

ベートーヴェン:
交響曲第9番 ニ短調 作品125 「合唱付き」



両公演チケット発売中 S:7,500円 A:6,000円 B:5,000円 C:4,000円 U25:1,500円

第179回定期演奏会

2026年1月31日(土) 開演14:00

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮=ユージン・ツィガーン
グリーグ:「ペールギュント」組曲 第1番 作品46
R. シュトラウス:「ばらの騎士」組曲 作品59
ムソルグスキー(ラヴェル編):「展覧会の絵」



ニューイヤーコンサート2026 in 北とびあ

2026年1月10日(土) 開演14:30 北とびあ さくらホール

ナレーション=南 果歩 指揮=垣内悠希 ソプラノ=隠岐彩夏
プロkofiev:語りとおケストラのための音楽劇『ピーターと狼』
ヨハン・シュトラウスII:喜歌劇『こうもり』序曲
ロッシニ:歌劇『セビリアの理髪師』序曲
ドヴォルザーク:わが母の教えたまいし歌
ヨハン・シュトラウスII:美しく青きドナウ ほか [3歳～入場可]



チケット発売中 S席5,000円 A席4,000円 B席3,000円 C席2,000円 (U25半額)

PACIFIC PHILHARMONIA TOKYO パシフィックフィルハーモニア東京チケットデスク

03-6206-7356
(平日10時～18時)

公式HP



WEB予約



読売日本交響楽団 <https://yomikyo.or.jp/>

お問合せ 0570-00-4390
読売チケットセンター (10時～18時 年末年始を除く年中無休)

常任指揮者ヴァイグレが、ブフィツナーの壮大なカンタータ
「ドイツ精神について」を豪華歌手陣、新国立劇場合唱団と日本初演!

甘美な旋律と洗練されたハーモニーが極上のロマン溢れる音楽を生み出す。

第654回定期演奏会

2026年1月20日(火) 19:00開演

サントリーホール

【指揮】セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者)
【ソプラノ】マダレーナ・ヒンタードブラー
【メゾ・ソプラノ】クラウディア・マーンケ
【テノール】シュテファン・リュウガマー
【バス】ファルク・シュトルックマン
【合唱】新国立劇場合唱団 (合唱指揮=富平恭平)

ブフィツナー:カンタータ「ドイツ精神について」
作品28 (日本初演)

好評発売中 【チケット料金】S ¥11,000 A ¥8,800
B ¥7,200 (完売) C ¥5,500 (完売)



休日の午後に聴く、華麗なるドイツ音楽名曲選!
名匠ヴァイグレと世界的名手ファウストが共演

ヴァイオリンの女王ファウストがシューマンの協奏曲で至芸を披露する。

第283回土曜・日曜マチネーシリーズ

2026年1月24日(土)、25日(日) 各14:00開演

東京芸術劇場

【指揮】セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者)
【ヴァイオリン】イザベル・ファウスト

エミリエ・マイヤー:「ファウスト」序曲

シューマン:ヴァイオリン協奏曲

メンデルスゾーン:交響曲第3番「スコットランド」

好評発売中 【チケット料金】S ¥8,800 A ¥6,600
B ¥5,500 C ¥5,000



神奈川フィルハーモニー管弦楽団 <https://www.kanaphil.or.jp/>

お問合せ 045-226-5107
神奈川フィル・チケットサービス (平日10時～17時)

みな 定期演奏会

会場:横浜みなとみらいホール 【チケット料金】S席7,000円 A席5,000円 B席3,500円 ユース(25歳以下)1,000円

第410回 2026年1月17日(土) 14:00開演

松本宗利音 (指揮)
ジュゼッペ・ジッポーニ (ヴァイオリン)

パガニーニ/
ヴァイオリン協奏曲第1番

メンデルスゾーン/
交響曲第4番「イタリア」



指揮:松本宗利音

第411回 2026年2月21日(土) 14:00開演

沼尻竜典 (指揮)

ベルリオーズ/
序曲「ローマの謝肉祭」

レスピーギ/
交響詩「ローマの噴水」
「ローマの松」
「ローマの祭り」



指揮:沼尻竜典

京都フィルハーモニー室内合奏団 <https://kyophil.com/>

お問合せ 075-950-2770

第277回 定期公演A「ニューイヤーコンサート」

2026年新春は華やかなワルツ・ポルカで幕開き!

2026年1月10日(土) 14:00開演 京都府民ホール アルティ

指揮:柳澤寿男 管弦楽:京都フィルハーモニー室内合奏団

J.ニコライ/歌劇「ウインザーの陽気な女房たち」序曲

J.シュトラウスI/ギャロップ「パリの謝肉祭」Op.100

J.シュトラウスII/エジプト行進曲 Op.335

J.シュトラウスI/中国人のギャロップ Op.20

J.シュトラウス/ワルツ「平和への棕櫚」Op.207 ほか



第278回 定期公演B 室内楽シリーズVol.30「郷愁のしらべ」

室内楽で世界各地の特色あるメロディをご堪能ください。

2026年2月7日(土) 14:00開演 京都文化博物館

伊福部昭/
アイヌの叙事詩による対話体牧歌

H.ヴェイラ=ロボス/
ブラジル風パッサ 第6番

A.ドヴォルザーク/
弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 Op.77



特別定期公演 Vol.2

世界的ホルン奏者パボラークと
チェコの盟友達が魅了。
名曲モーツァルトとドヴォルザーク



2025年12月4日(木) 19:00 5日(金) 14:00

指揮・ホルン/ラテク・パボラーク*
共演/パボラーク・アンサンブル**

ヴァイオリン/マルティナ・パチョバー、高橋ゆ子
ヴィオラ/カレル・ウンターミューラー
コントラバス/ダニエル・ルピナス(OEK)

モーツァルト: 歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲

モーツァルト: セレナーデ 第6番 二長調

「セレナータ・ノットゥルナ」**

モーツァルト: ホルン協奏曲 第3番 変長調*

ドヴォルザーク: チェコ組曲 二長調

石川県立音楽堂邦楽ホール ご予約:石川県立音楽堂チケットボックス TEL 076-232-8632(窓口9:00-19:00/電話10:00-18:00)

全席指定(消費税込) S席 5,000円 A席 4,000円 観客席 2,500円 すたあらいと席 完売 車椅子席 5,000円

お得な割引◎OEK 定期会費割引(S・A席のみ) S席 4,500円 A席 3,600円 ◎シニア割引(65歳以上 S・A席のみ) S席 4,750円 A席 3,800円

◎U25割引(25歳以下 前日より予約可) 全席当日券半額
*観客席は靴を脱いでお座りいただきます。お席によっては他のお客様が視界に入り、見えにくい場合がございます。

特別定期公演 Vol.3

名手達と新たな才能の融合
登場2人のソリストと3つの協奏曲



2026年1月30日(金) 19:00 31日(土) 14:00

指揮/吉崎理乃

ピアノ/アレクサンドル・メルニコフ トランペット/イェルーン・ベルワルツ

プロコフィエフ: 交響曲 第1番 二短調「古典交響曲」

ショスタコーヴィチ: ピアノ協奏曲 第1番 八短調**

ハイドン: トランペット協奏曲 変長調 VII**

ショスタコーヴィチ: ピアノ協奏曲 第2番 へ長調*



特別定期公演 Vol.4

ピアニスト北村朋幹の弾き振り
注目作品ガルドテラのマードレ(母)。日本初披露



2026年2月20日(金) 19:00 21日(土) 14:00

指揮・ピアノ/北村朋幹*

シューマン: 序奏とアレグロ・アパッシオナート op.92*

ガルドテラ:

マードレ(母)-ピアノとオーケストラのための(2023,日本初演)*

ブラームス: ピアノ協奏曲 第2番 変長調 op.83*

石川県立音楽堂コンサートホール再開記念
&オルガンリニューアル
MANSAI with OEKスペシャルコンサート

2026年3月11日(水) 19:00

演出: 主演/野村篤彦 指揮/松井慶太

振付/中村孝太郎、花柳源九郎

舞踊/花柳ツル、工藤朋子 他

メゾ・ソプラノ/秋本悠希

オルガン/大木麻理

ラインベルガー: オルガン協奏曲第2番

シューマン: 蝶々(オーケストラ版)

ファミリー: バレエ音楽「恋は魔術師」

石川県立音楽堂コンサートホール

全席指定(消費税込):

SS7,000円 S6,000円 A4,000円 B2,500円(12/11発売)

萬音&OEKファミリー「恋は魔術師」ツアー

〜ファミリー生誕150年記念〜

2025年12月13日(土)フェニーチェ堺

2026年3月14日(土)ゆーとぴあ新潟市民芸術文化会館コンサートホール

2026年3月15日(日)郡山けんしん文化センター

2026年3月17日(火)サントリーホール

2026年3月24日(火)愛知県芸術劇場コンサートホール

セントラル愛知交響楽団 <https://www.caso.jp/>

ハイドンのロンドン精神 Vol.6

2025年12月4日(木)

18:00開場/18:45開演

電気文化会館 ゾンコンサートホール

指揮/角田鋼亮(音楽監督)

クラウス: 交響曲ハ短調 VB142

F.J.ハイドン:

交響曲第103番 変長調「太鼓連打」

F.J.ハイドン:

交響曲第104番 二長調「ロンドン」



一般4,000円 U25 1,000円
※U25は公演当日25歳以下対象、
入場時要証明書/未就学児入場不可

第215回定期演奏会「ロマン派の末裔」

2026年1月24日(土)

13:45開場/14:30開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

指揮/大井剛史 オーボエ/吉井瑞穂

ドヴォルザーク: 交響詩「水の精」Op.107

R.シュトラウス:

オーボエ協奏曲 二長調 AV.144

ラフマニノフ: 交響的舞曲 Op.45



プラチナ席7,000円 S席5,000円 A席4,000円
B席3,000円 C席2,000円 U25各席半額
※U25は公演当日25歳以下対象、入場時要証明書/
未就学児入場不可

Wコンチェルト2025 務川慧悟Vol.1

2026年3月12日(木)

18:00開場/18:45開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

指揮/角田鋼亮(音楽監督) ピアノ/務川慧悟

ラフマニノフ:

バガニーニの主題による狂詩曲 Op.43

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番 二短調 Op.30



S席5,000円(ペア券7,000円) A席4,000円(ペア券5,600円) B席3,000円 C席2,000円
U25各席半額(ペア席対象外) ※ペア席は前売のみ、数量限定。位置指定あり。※U25は公演当日25歳以下対象、入場時要証明書/未就学児入場不可

第216回定期演奏会「ロマンティックの神髄」

2026年3月21日(土)

13:45開場/14:30開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

指揮/角田鋼亮(音楽監督)

ピアノ/阪田知樹

丹羽菜月: 委嘱新作(世界初演)

マルクス:

ロマンティック・ピアノ協奏曲 長調

チャイコフスキー: 交響曲第4番 へ短調 Op.36



プラチナ席7,000円 S席5,000円 A席4,000円
B席3,000円 C席2,000円 U25各席半額
※U25は公演当日25歳以下対象、入場時要証明書/
未就学児入場不可

中部フィルハーモニー交響楽団 <https://chubu-phil.com/>

第101回定期演奏会
KOMAKIシリーズ2 こまぎ第九2025

2025年12月13日(土) 小牧市市民会館

開演15:00(開場14:15)

指揮/鈴木秀美

独唱/Sop. 中江早希

M.Sop. 布施奈緒子

Ten. 櫻田 亮

Bas. 水見健一郎

合唱/NUA ハルモニオ合唱団、

名古屋芸術大学学生合唱団、

こまぎ第九 2025 特別合唱団

ベートーヴェン:「ミサ・ソレムニス」二長調 作品123より「キリエ」

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付き」

セレクトプラチナ席9,000円、プラチナ席8,000円、S席7,000円、A席5,500円、

B席4,500円、U-25 2,500円※25歳以下(S、A、B席のみ/オンラインチケットサイトのみ取扱い)



岐阜特別演奏会 ニューイヤーコンサート
音楽の福袋第15弾!

2026年1月10日(土) サラマンカホール

開演14:00(開場13:15)

指揮/出口大地

ヴァイオリン/ジュゼッペ・ジッポニー*

ロッシーニ:

歌劇「泥棒かささぎ」序曲

チャイコフスキー:

ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35*

ヨーゼフ・シュトラウス:

鍛冶屋のポルカ 作品269

ヨハン・シュトラウス2世:

ワルツ「ウィーンの森の物語」作品325 ほか

プラチナ席:6,500円、S席:5,500円、A席:4,500円、

U-25:1,500円※25歳以下(オンラインチケットサイトのみ取扱い)



第102回定期演奏会
KOMAKIシリーズ3 等

2026年2月14日(土) 小牧市市民会館

開演15:00(開場14:15)

指揮/飯森範親

箏/別所知佳*

フルート/山村 歩**

飯森門舞:委嘱作品(世界初演)

宮城道雄/下総院一:

巻越調箏協奏曲*

宮城道雄:春の海***

ドヴォルザーク:

交響曲 第8番 二長調 作品88

セレクトプラチナ席:8,000円、プラチナ席:7,000円

S席:6,000円、A席:4,500円、B席:3,500円、

U-25:1,500円※25歳以下(S、A、B席のみ/
オンラインチケットサイトのみ取扱い)



アマービレフィルハーモニー管弦楽団 <https://amabile-phil.com/>

~茨木市の第九~ 第20回定期演奏会

7月に創立10周年を迎えたアマービレフィルハーモニー管弦楽団
100名を超える合唱団とともに! 茨木市での待望の第九公演!

2025年12月7日(日) 14時開演(13時開場) 茨木市おにクル ゴウダホール

指揮:松岡 究 ヴァイオリン:川井郁子

ソプラノ:藤村江奈季 アルト:藤本裕貴

テノール:谷村悟史 バリトン:西村圭市

管弦楽:アマービレフィルハーモニー管弦楽団

合唱:アマービレ祝祭合唱団/茨木市合唱連盟

スメタナ/連作交響詩「我が祖国」より第2曲ヴェルタヴァ(モルダウ)

バルトーク/ルーマニア民族舞曲

モンティ/チャルダッシュ

ロドリゴ/レッド・ヴァイオリン

ベートーヴェン/交響曲第9番 二短調作品125「合唱付き」

チケット料金:全席指定 ※税込 ※未就学児入場不可 S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,500円 学生券 1,000円 (25歳以下の学生の方のみご購入可能 ※当日受付にて学生証のご提示をお願いいたします)

チケットお問い合わせ:楽団事務局 072-648-5874 茨木市文化振興財団 072-625-3055 電子チケット販売サイト「teket」でも好評発売中!



定期演奏会「肖像」シリーズ

【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】[金]18:45 [土]16:00

【チケット料金】SP席：¥14,000 P席：¥10,500 S席：¥7,000 A席：¥6,000 B席：¥5,000 C席：¥4,000 D席：¥3,000

第540回定期演奏会〈恋人たちの肖像〉

2025年12月12日(金) / 13日(土)

ジェフリー・バターンソン(指揮) 上野通明(チェロ)*
ストラヴィンスキー：サーカス・ポルカ
ミャスコフスキー：チェロ協奏曲ハ短調 作品66*
プロコフィエフ：
バレエ『ロメオとジュリエット』作品64(抜粋)



第541回定期演奏会〈友人たちの肖像〉

2026年1月16日(金) / 17日(土)

松井慶太(指揮)
小川響子(ヴァイオリン*/名フィル コンサートマスター)
ブラームス：ヴァイオリン協奏曲ニ長調 作品77*
エルガー：スルスム・コルダ 作品11
エルガー：エニグマ変奏曲 作品36



第542回定期演奏会〈家族の肖像〉

2026年2月20日(金) / 21日(土)

川瀬賢太郎(指揮/名フィル音楽監督)
五藤希愛(語り)* 大田智美(アコーディオン)*
小川響子(ヴァイオリン**/名フィル コンサートマスター)
武満徹：糸図-若い人たちのための音楽詩-*
R. シュトラウス：交響詩『英雄の生涯』作品40**



第135回定期演奏会

オーケストラの日2026 名曲コンサート



ストラヴィンスキー／弦楽のための協奏曲ニ調
シューマン／ピアノ協奏曲イ短調 op.54
チャイコフスキー／交響曲第4番ハ短調 op.36

メンデルスゾーン／序曲「フィンガルの洞窟」 op.26
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲ホ短調 op.64
メンデルスゾーン／交響曲第4番イ長調 op.90 「イタリア」

2/22 日 13:30開演
静岡市清水文化会館マリナート 大ホール

2/23 月・祝 13:30開演
アクティシティ浜松 中ホール

3/28 土 13:30開演
静岡市清水文化会館マリナート 大ホール

各公演 チケット【全席指定(税込)】 S席 5,500円 | A席 4,500円(学生 2,000円) | B席 3,500円(学生 1,500円) ※当日500円増(学生を除く) ※未就学児入場不可 ※学生は25歳以下の大学生まで

共に響き合う、京響 City of Kyoto Symphony Orchestra

会場：京都コンサートホール・大ホール

2025.12/27(土)からチケット発売!

第708回定期演奏会

デ・フリーントのシューベルトとブルックナー
ブルックナーの3番は1962年の日本初演以来の演奏!

2026年2月13日(金) 19:00 開演

2026年2月14日(土) 14:30 開演

指揮：ヤン・ヴィレム・デ・フリーント(首席客演指揮者)
シューベルト：交響曲第4番ハ短調 D.417「悲劇的」
ブルックナー：交響曲第3番ニ短調(初稿/1873年)



2026.1/23(金)からチケット発売!

第709回定期演奏会 オペラ・コンチェルトアンテ

沖澤のどかの「オペラ・コンチェルトアンテ」
「ゴジ・ファン・トゥッテ」が定期に登場!

2026年3月20日(金・祝) 14:30 開演

指揮：沖澤のどか(常任指揮者)
独唱：隠岐彩夏(フィオルディリージ) 山下裕賀(ドラベッラ)
糸賀修平(フェランド) 大西宇宙(グリエルモ)
鶴木絵里(デスビーナ) 宮本益光(ドン・アルフォンソ)
合唱：京響コーラス
モーツァルト：歌劇「ゴジ・ファン・トゥッテ」K.588 全2幕(演奏会形式)



■入場料
S：6,000円 A：5,500円 B：4,500円
C：3,500円 P：3,000円

U30(前売)
S：2,500円 A：2,000円 B：1,500円

金曜ペアチケット(2/13公演)

S：10,000円 A：9,000円

B：8,000円

※「第709回定期演奏会」では
金曜ペアチケットの販売はありません

■チケットご予約

京都コンサートホール・チケットカウンター

TEL (075) 711-3231

24時間オンラインチケット購入

<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

■京都市交響楽団

オフィシャル・

ホームページ



一今後の主な公演一

第68回定期演奏会 2026年6月27日(土)

指揮：栗辻 聡

曲目：管弦楽曲、大学院生または卒業生の独奏による協奏曲(予定) ほか

第69回定期演奏会 2026年11月8日(日)

指揮：牧村邦彦 演出：井原広樹

曲目：“ConcertOpera”～音楽とお芝居、映像の新しいかたちのコンサート・オペラ

ハイドン／歌劇「報われぬ不実」全2幕 原語上演・字幕付(フルオーケストラ原語本格上演日本初)



オフィシャルHP

楽団創立45周年記念シリーズ 第286回定期演奏会

【オペラ演奏会形式シリーズVol.4 “耳なし芳一”】

2026年2月22日(日) 15:00 開演(14:00 開場)
会場：ザ・シンフォニーホール

15時から演奏の前に、作曲家 池辺晋一郎氏と音楽評論家 加藤浩子氏のトークがございます。

池辺晋一郎：

オペラ「耳なし芳一」

演奏会形式 日本語上演 [日本語字幕付き]

指揮：柴田真郁 (ミュージックパートナー)
芳一：渡辺 康 和尚：片桐直樹 与作：青山 貴
おふく：中島郁子 武士：伊藤貴之 老女：福原寿美枝
若い娘：東山桃子 琵琶：久保田晶子
ナレーション：仲代達矢 (録音)
合唱：大阪響コーラス 合唱指揮：中村貴志
ステージング：奥村啓吾

料金 / S席 6,500円、A席 5,500円、B席 4,000円、C席 2,500円、オルガン席 2,000円、
青少年学生券 1回券 1,000円 5回券 4,000円 ※青少年学生券は楽団のみ取り扱い。当日座席指定。25歳までの学生のみ有効。
※一部の座席で字幕が見えない可能性があります。詳しくは楽団事務局までお問い合わせください。※未就学児のご入場はご遠慮ください。

主催/公益社団法人大阪交響楽団 特別協賛/大和ハウス工業株式会社



指揮：
柴田真郁
© T.Taira date

大阪フィルハーモニー交響楽団 <https://www.osaka-phil.com/>

お問合せ 06-6656-4890
大阪フィルチケットセンター

第594回定期演奏会

2026年1月22日(木)・1月23日(金)
両日とも19:00開演(18:00開場)

指揮：下野竜也
ソプラノ：石橋栄実 バリトン：宮本益光
大栗 裕 / 管弦楽のための「神話」
小山清茂 / 管弦楽のための鄙歌 第2番
バルトーク / 歌劇「青ひげの城」作品 11
(演奏会形式)



第595回定期演奏会

2026年2月13日(金) 19:00開演(18:00開場)
2月14日(土) 15:00開演(14:00開場)

指揮：尾高忠明
メゾ・ソプラノ：アンナ・ルチア・リヒター
エルガー / 弦楽のためのセレナーデ ホ短調 作品 20
エルガー / 海の絵 作品 37
エルガー / 交響曲 第3番 ハ短調 作品 88
(ペインによる補筆完成版)



第596回定期演奏会

2026年3月5日(木) 19:00開演(18:00開場)
3月6日(金) 19:00開演(18:00開場)

指揮：デイヴィッド・レイランド
ソプラノ：七澤 結 メゾ・ソプラノ：小泉詠子
テノール：糸賀修平 バス：加藤宏隆
合唱：大阪フィルハーモニー合唱団 (合唱指導：福島章恭)
シューマン / 交響曲 第2番 ハ長調 作品 61
モーツァルト / レクイエム 二短調 K.626



会場：フェスティバルホール

料金：A席 7,000円 B席 5,500円 C席 3,500円 BOX席 8,000円 学生席 1,000円
※未就学児入場不可 ※公演中止・公演日時変更の場合を除き、キャンセル・払い戻しはいたしかねます。

関西フィルハーモニー管弦楽団 <https://kansaiphil.jp/>

お問合せ 06-6115-9911

住友生命いずみホールシリーズVol.62

鈴木優人のベートーヴェン・ヒストリー《第3回》

2026年1月22日(木) 19:00 開演(18:00 開場)

会場：住友生命いずみホール

指揮 & お話：鈴木 優人 (関西フィル首席客演指揮者)

フォルテピアノ：阪田 知樹

ベートーヴェン：「フィデリオ」序曲

ピアノ協奏曲第3番

交響曲第3番「英雄」

※出演者、曲目、曲順など、内容が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

チケット発売中 5,500円(S) 4,500円(A) 2,000円(学生 / 25歳以下)

協賛：株式会社みずほ銀行 特別協賛：ダイキン工業株式会社



指揮 & お話
鈴木 優人
© Marco Borggreve



フォルテピアノ
阪田 知樹
© Ayuset

テレマン室内オーケストラ <http://www.cafe-telemann.com/artists/orchestra.html>

お問合せ 06-6345-1046

第322回定期演奏会

テレマンの街ハンプルクから中之島をウィーンに！
シューベルトからシューマンへ～古典派の継承者たち～

日時 2026年1月9日(金) 18時30分開演

会場 大阪市中央公会堂中集會室

演目 F. シューベルト：交響曲第7番 口短調 D 759 「未完成」※補筆完成版

R. シューマン：チェロ協奏曲 イ短調 op.129

R. シューマン：交響曲 卜短調

出演 指揮：延原武春 チェロ：鷺見敏 テレマン室内オーケストラ

料金 前売 ¥5,500 当日 ¥6,000



パツハからベートーヴェンまで
日本テレマン協会
since 1963



北摂定期演奏会
～箕面公演～

第295回定期演奏会

第296回定期演奏会

センチュリー豊中名曲シリーズ Vol.37
「花」初耳花言葉

2026年1月16日(金) 19:00開演
東京建物 Brillia HALL 箕面 大ホール
(箕面市立文化芸術劇場)
指揮: 久石 譲 ハープ: エマニュエル・セイソン
久石 譲: Encounter for String Orchestra
久石 譲: ハープ協奏曲
ベートーヴェン: 交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」



【北摂定期】 S:4,500円 A:3,500円 B:2,500円
【第295回・第296回定期】 S:10,000円(特典付き) A:7,000円 B:5,500円 C:4,000円 D:3,000円

2026年2月28日(土)14:00開演
ザ・シンフォニーホール
指揮: 鈴木 雅明 ヴァイオリン: 中野りな
シューベルト: 交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485
コルンゴルト: ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
ベートーヴェン: 交響曲 第8番 へ長調 作品93



2026年3月28日(土) 15:00開演
豊中市立文化芸術センター 大ホール
指揮: 喜古 恵理香 ヴァイオリン: 篠原 悠那
ヴィヴァルディ:
ヴァイオリン協奏曲集「和声と創意の試み」
作品8より「四季」(指揮なし)
ディーリアス: 小管弦楽のための2つの小品
シューマン: 交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」



【チケット料金】S:4,500円 A:3,500円 B:2,500円

ご予約・お問合せ/センチュリーチケットサービス TEL 06-6848-3311(平日10:00~18:00) <https://www.jcso.or.jp/ticket/>

兵庫芸術文化センター管弦楽団 <https://hpac-orc.jp/>

お問合せ 0798-68-0203

兵庫県立芸術文化センター開館20周年記念公演

第165回定期演奏会

佐渡 裕 ベートーヴェン「第九」

2025年12月12日(金) 13日(土) 14日(日)
指揮: 芸術監督/佐渡 裕
ソプラノ/ハイティ・ストーパー
メゾ・ソプラノ/清水華澄
テノール/リッカルド・デッラ・シウカ
バリトン/グスターボ・カステイリヨ
合唱指揮/矢澤定明 合唱/ベートーヴェン「第九」合唱団
ベートーヴェン: 交響曲 第9番 二短調 op.125「合唱付き」



第166回定期演奏会

佐渡 裕 ガーシュウィン&バルトーク

2026年1月23日(金) 24日(土) 25日(日)
指揮: 芸術監督/佐渡 裕 ピアノ/上原ひろみ
ガーシュウィン: ピアノ協奏曲 (ハ調の協奏曲)
バルトーク: 管弦楽のための協奏曲



第167回定期演奏会

原田慶太楼×レイ・チェン ものがたりの音楽

2026年2月20日(金) 21日(土) 22日(日)
指揮/原田慶太楼 ヴァイオリン/レイ・チェン
コルンゴルト: 劇的序曲 op.4
コルンゴルト: ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35
武満 徹: 弦楽オーケストラのための3つの映画音楽
プロコフィエフ: 「ロメオとジュリエット」組曲より(抜粋)



第168回定期演奏会

インキネン プロコフィエフ&シベリウス

2026年
3月13日(金) 14日(土) 15日(日)
指揮/ピエタリ・インキネン
チェロ/北村 陽
シベリウス: 交響詩「ボホラの娘」op.49
プロコフィエフ:
交響的協奏曲 ホ短調 op.125
シベリウス: 交響曲 第2番 二長調 op.43



各日 15:00 開演 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール チケット料金: A 5,000円 / B4,000円 / C2,500円 / D1,000円 (全席指定/税込)

【お問合せ先・チケットご予約】芸術文化センターチケットオフィス TEL 0798-68-0255 (10:00AM ~ 5:00PM 月曜休※祝日の場合翌日) <https://www.gcenter-hyogo.jp>

広島交響楽団 <http://hirokyo.or.jp/>

お問合せ 082-532-3080

第457回定期演奏会

2026年1月23日(金) 18:45 開演
広島文化学園 HBG ホール
指揮/ジェームズ・フェデック
ピアノ/クシシュトフ・ヤブウォンスキ
ベルリオーズ:
歌劇「ペアトリスとベネディクト」序曲
ショパン: ピアノ協奏曲第2番 短調作品21
ショスタコーヴィチ (没後50年):
交響曲第6番 短調作品54

チケット料金 S:5,800円 A:5,200円
B:4,500円(学生:1,500円)



第458回プレミアム定期演奏会

2026年2月14日(土) 15:00 開演
広島文化学園 HBG ホール
指揮/クリスティアン・アルミンク
ピアノ/久未 航
ジークムント(テノール)/村上敏明
ジークリンデ(ソプラノ)/渡邊仁美
フンディング(バリトン)/志村文彦
リスト (没後140年):
ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S.124/R.455
ワグナー: 楽劇「ワルキューレ」より第1幕
(演奏会形式・字幕付き)

チケット料金 S:6,800円 A:6,200円
B:5,500円(学生:1,500円)



第459回定期演奏会

2026年3月7日(土) 15:00 開演
広島文化学園 HBG ホール
指揮/ピエタリ・インキネン
ピアノ/キット・アムストロング
シベリウス:
交響的幻想曲「ボホラの娘」作品49
リスト (没後140年):
ピアノ協奏曲第2番 長調 S.125/R.456
ブラームス:
交響曲第2番 二長調作品73

チケット料金 S:5,800円 A:5,200円
B:4,500円(学生:1,500円)



シン・ディスカバリー・シリーズ

被爆80周年(ヒロシマとモーツァルト)第4回
2026年2月25日(水)18:45 開演
JMS アステールプラザ大ホール
指揮/クリスティアン・アルミンク
ソプラノ/種谷典子 アルト/藤井麻美
テノール/鈴木 准 バリトン/ジョン・ハオ
合唱/エリザベト音楽大学合唱団
細川俊夫: 《おお、大いなる神秘よ》
同声合唱のための
細川俊夫: 《渦》オーケストラのための
モーツァルト: レクイエム 二短調 K.626
(ジュスマイヤー完成版—新モーツァルト全集)

チケット料金 S:5,800円 A:4,800円
B:3,800円(学生:1,500円)



神戸市室内管弦楽団 <https://www.kobe-ensou.jp/ensemble/>

お問合せ 078-361-7241

ベートーヴェンからシューベルトへ。注目の人気ピアニストを迎えて
第171回定期演奏会「大いなる旅立ち」
2026年3月7日(土) 15:00開演
会場:神戸文化ホール大ホール

指揮: 鈴木秀美
ピアノ: 務川慧悟
管弦楽: 神戸市室内管弦楽団
シューベルト: 歌劇『サラマンカの友人たち』 D326 - 序曲
ベートーヴェン: ピアノ協奏曲 第1番 長調 作品15
シューベルト: 交響曲 第8番 長調 D944 《ザ・グレート》

チケット販売:好評発売中 入場料【全席指定】:S席 4,000円 A席 2,000円 U25(25歳以下) 1,000円

※U25チケットのお客様は、入場時に年齢の確認できる証明書の提示が必要です。
※やむを得ず出演者を変更する場合があります。※就学前のお子様のご入場はご遠慮ください。



チケットに関するお問い合わせ先 神戸文化ホールプレイガイド 078-351-3349

第437回定期演奏会

2026年2月11日(水・祝) 午後3時開演
アクロス福岡シンフォニーホール



指揮 太田 弦

マーラー/交響曲 第 9 番 二長調

[チケット料金] S席:5,900円、A席:4,900円、B席:3,700円、学生:1,500円
車椅子席(限定4席):3,700円
※学生料金でのお求めはB席のみ対象となります。

チケットお問い合わせ:九響チケットサービス ☎ 092-823-0101



指揮:太田 弦

©藤村祐紀

奈良フィル 40周年

ニューイヤーコンサート
奈良フィルハーモニー管弦楽団

2026 1.18 日

15:00開演 / 14:30開場

DMG MORIやまと郡山城ホール・大ホール

入場料(全席自由) ※未成年児の入場はご遠慮ください

前売り 一般 3,000円 / 学生 1,500円

当日 一般 3,500円 / 学生 2,000円

演奏曲

1部 音楽物語
ピーターと狼 (ナレーション付き) / S.プロコフィエフ

2部 ニューイヤーを華やかに
・春の声 / J.シュトラウス2世
・舞踏への勧誘/ウェーバー
・3つのドイツ舞曲 Kv. 605 / モーツァルト
・3つの映画音楽より(ワルツ)(他人の顔)/武満徹
・トリッチ・トラッチ・ポルカ / J. シュトラウス2世
・美しき青きドナウ / J. シュトラウス2世

ナレーション
大原 未子
Sueko Ohara

指揮/粟辻 聡
So Awatsuji

問合せ:奈良フィル事務局 TEL 0743-57-2235 naraphil@leto.conet.ne.jp チケット取り扱い:奈良フィル事務局 TEL 0743-57-2235 やまと郡山城ホール TEL0743-54-8000

岡山フィルハーモニック管弦楽団

第87回 定期演奏会

2026.3.8 日

14:00開演 (開場13:00)

レタザムホール 大ホール

指揮 高岡 健
ピアノ 清水 和音

歌劇「売られた花嫁」序曲
ショスタコフ
ピアノ協奏曲第1番
チャイコフスキー
交響曲第6番「悲愴」

初・高松公演!

ニューイヤーコンサート

2026.1.18 日

開演 14:00 (開場13:00)

岡山芸術創造劇場ハレノワ大劇場
岡山市北区表町3丁目11番50号

指揮 佐々木新平
ソリスト 砂崎知子(箏)
野津舞男(笙)
柳くるみ(ソプラノ)

<第一部>
小六禮次郎/鳥城浪漫
宮城道雄/平調「越天楽」による箏変奏曲(ほか)

<第二部>
J.シュトラウスII世/「美しく青きドナウ」
「春の声」
バーンスタイン/ウエストサイドストーリーより
「シンフォニックダンス」

S 5,500円 A 4,400円 B 3,300円 B1-3 1,000円 チケットの問合せ:岡山シンフォニーホールチケットセンター TEL086-234-2010

第44回定期演奏会

2026年1月18日(日) 14:00開演(13:00開場)

レクザムホール(香川県県民ホール) 大ホール

指揮:大友直人 ピアノ:西本裕矢 管弦楽:瀬戸フィルハーモニー交響楽団

プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 OP.26

ブラームス:交響曲第2番 二長調 OP.73

[全席指定] S席 ¥4,000 A席 ¥3,500 学生席(高校生以下) ¥1,500
発売日 一般10月8日(水) / 会員10月1日(水)

指揮:大友直人

ピアノ:西本裕矢

主催:公益社団法人瀬戸フィルハーモニー交響楽団
共催:香川県(香川県文化芸術表彰顕彰事業) 協力:高松国際ピアノコンクール組織委員会



指揮:大友直人

ピアノ:西本裕矢

定期演奏会 名曲コンサートシリーズ ~偉大なる作曲家バッハに寄せて~

第25回 12月11日(木) 19:00開演
長崎公演 長崎市民会館・文化ホール

第40回 12月12日(金) 19:00開演
大村公演 シーハットおおむら・さくらホール

☆大村公演は、テレビマンユニオンMember's TVU CHANNELにて、
有料ライブ配信いたします。

松原勝也(コンサートマスター)、宮坂純子(チェンバロ)、永留結花(フルート)、長崎 OMURA 室内合奏団

J.S. バッハ/松原勝也編曲:シャコンヌ BWV 1004/5
J.S. バッハ/ブランデンブルク協奏曲第5番 二長調 BWV1050
メンデルスゾーン/交響曲第3番 イ短調 Op.56「スコットランド」

[チケット料金] 大人4,000円 学生1,000円
問い合わせ先 認定NPO法人長崎OMURA室内合奏団 Email:oce02@omurace.or.jp

公演詳細はこちら

松原勝也 宮坂純子 永留結花



松原勝也

宮坂純子

永留結花

九州交響楽団 / 奈良フィルハーモニー管弦楽団 / 岡山フィルハーモニック管弦楽団 / 瀬戸フィルハーモニー交響楽団 / 長崎OMURA室内合奏団

指揮者の情報

中部フィルハーモニー交響楽団の
芸術顧問に藤岡幸夫さん

中部フィルハーモニー交響楽団は、芸術監督秋山和慶氏の逝去に伴い、その後任として、2026年4月より藤岡幸夫氏の芸術顧問(アーティストック・アドバイザー)就任を発表した。

事務局などの情報

九州交響楽団の理事長に
五島久さんが就任

7年間理事長を務められた櫻井文夫氏が退任し、五島久氏が新理事長に就任した。

訃報

指揮者の村川千秋さん

山形交響楽団創立名誉指揮者の村川千秋(むらかわ・ちあき)氏が、2025年6月25日、肺炎のため逝去された。享年93。

1972年、「子どもたちに生の演奏を、県民に本物の音楽を聴かせたい」との情熱のもと、村川氏の呼びかけにより山形交響楽団が創立された。芸術音楽を通じて、「子どもたちに良い音楽を届けたい」その信念から始まったスクールコンサートは、これまでに5,400回を超え、のべ300万人以上の子どもたちに生の音楽が届けられている。

最後の共演は2025年5月18日に開催された「ユアタウンコンサート2025村山公演」となった。長年にわたり地域文化の発展に尽力された功績は、今も山響の活動に受け継がれている。



2025年5月18日「ユアタウンコンサート村山公演」
@山形交響楽団

表彰・受賞の情報

第33回(2025年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞・特別賞

第33回(2025年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞に出口大地さん、特別賞に故・宮澤敏夫さんが選出された。公益信託渡邊暁雄音楽基金は、日本の指揮者・渡邊暁雄氏の功績を引き継ぎ、日本の音楽文化の発展を願って1992年に設立され「渡邊暁雄音楽基金音楽賞・特別賞」を通じて、将来の音楽界を担う人々を応援している。

その他の情報

一般社団法人日本クラシック音楽事業協会がクラシック音楽アワードの開催を発表

一般社団法人日本クラシック音楽事業協会は、日本初のクラシック音楽専門アワード「クラシック音楽アワード」(CLASSICAL MUSIC AWARDS, CMA)を2026年から毎年開催することを発表した。クラシック音楽の魅力を広めるため、その普及に貢献する著名人を顕彰し、アンバサダーとして迎える。

受賞者は毎年9月4日《クラシック音楽の日》に発表。

一般財団法人日本実演芸術福祉財団設立

実演芸術分野(演劇・音楽・舞踊・演芸など)で活動する実演家やスタッフが、安心して「仕事」として舞台芸術に携われる環境づくりを目指して、2025年7月、一般財団法人日本実演芸術福祉財団が設立された。

当面は、フリーランスで活動する実演家やスタッフへの認知向上を図りながら、労災保険特別加入制度の普及と加入促進に力を注ぐ。

今後は、労災補償にとどまらず、誰もが安心して創造の現場に立ち続けられる仕組みづくりを進め、実演芸術を支える人々の環境改善を通じて、文化芸術の持続的な発展に寄与していくことを掲げている。

【賛助会員】

●法人会員

オリックスグループ
キックマン株式会社
公益財団法人日本製鉄文化財団
株式会社日本旅行
公益財団法人ローム ミュージック ファン
デーション

●個人会員

黒田康裕 (敬称略、五十音順)

*連盟の活動をご理解いただき支援して下さる法人あるいは個人の方へ賛助会員へのご入会をお願いしています。

【加盟40団体】

〈正会員〉

札幌交響楽団
仙台フィルハーモニー管弦楽団
山形交響楽団
群馬交響楽団
NHK交響楽団
新日本フィルハーモニー交響楽団
東京交響楽団
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
東京都交響楽団
東京フィルハーモニー交響楽団
日本フィルハーモニー交響楽団
パシフィックフィルハーモニア東京
読売日本交響楽団
神奈川フィルハーモニー管弦楽団
富士山静岡交響楽団
オーケストラ・アンサンブル金沢
セントラル愛知交響楽団
中部フィルハーモニー交響楽団
名古屋フィルハーモニー交響楽団
京都市交響楽団
大阪交響楽団
大阪フィルハーモニー交響楽団
関西フィルハーモニー管弦楽団
日本センチュリー交響楽団
兵庫芸術文化センター管弦楽団
広島交響楽団
九州交響楽団

〈準会員〉

千葉交響楽団
藝大フィルハーモニア管弦楽団
東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団
愛知室内オーケストラ
京都フィルハーモニー室内合奏団
アマービレフィルハーモニー管弦楽団
ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
テレマン室内オーケストラ
神戸市室内管弦楽団
奈良フィルハーモニー管弦楽団
岡山フィルハーモニック管弦楽団
瀬戸フィルハーモニー交響楽団
長崎 OMURA 室内合奏団



本誌は、環境に配慮して
FSC®森林認証紙(ECFパルプ)
を使用しています。



日本オーケストラ連盟ニュース第118号 2025年11月28日発行

発行所 ●公益社団法人 日本オーケストラ連盟

編集・発行人 望月正樹 〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル棟7F

Tel: 03-5610-7275 http://www.orchestra.or.jp/

印刷 ● 錦明印刷株式会社 制作 ● 林 僚子